

# 2

## 全国推進の取り組み



# 【検討委員会】

## 第1回検討委員会(検討内容)

### 検討委員

分野	所属	講師名
全国的な農業・食品業の支援	食と農研究所 代表	加藤 寛昭(座長)
全国的な農業・食品業の支援	株式会社K3 ロジスティクス 代表取締役	四本 和臣
全国的な組織化運営	東京大学農学生命科学研究科海洋アライアンス 特任研究員 株式会社アイファイ 代表取締役	千田 良仁
労務管理	キリン社会保険労務士事務所	入来院 重宏

(敬称略)

### 議事次第

日時：平成26年6月17日(火) 14:00～16:00

会場：パソナグループ本部(東京)

1. 開会
2. 事業管理責任者代理(株式会社パソナ農援隊 取締役 根本恵介)より挨拶
  - 1 パソナ農援隊の紹介と担当者の紹介
3. 会議参加者紹介
  - 1 各検討委員のご紹介
  - 2 農林水産省担当者のご紹介
4. 議事
  - 1 全体的な事業概要の説明
  - 2 全国推進事業の概要と状況の説明
  - 3 地区推進事業の概要と状況の説明
  - 4 全国推進事業の施策についての検討(全体のスケジュール検討)
  - 5 第1回全国会議(キックオフ会議)の検討
    - ・パネルディスカッションの検討
    - ・地区推進セミナーの検討
    - ・チラシの確認(告知の御願い)
5. その他、共有事項・連絡事項
  - 1 WEBの方向性検討

## 第2回検討委員会(検討内容)

### 検討委員

分野	所属	講師名
全国的な農業・食品業の支援	食と農研究所 代表	加藤 寛昭(座長)
全国的な農業・食品業の支援	株式会社K3 ロジスティクス 代表取締役	四本 和臣
全国的な組織化運営	東京大学農学生命科学研究科海洋アライアンス 特任研究員 株式会社アイファイ 代表取締役	千田 良仁

(敬称略)

### 議事次第

日時：2014年9月25日（木）14時30分～（予定）16時30分

場所：パソナグループ本部ビル B1階Aルーム（〒100-8228 東京都千代田区大手町2-6-4）

#### 次第

##### 1 開会挨拶

###### ① 本日のご出席者紹介

##### 2 議事

###### ① 地区推進事業者の状況報告

###### ② 全国推進状況報告

事業目的の確認および目標達成のための方策

（チラシ、WEB状況、今後のスケジュール、成果物の確認）

###### ③ ブロック会議について

開催場所、時期、プログラム

###### ④ 育成手法の検討について

##### 3 閉会

## 第3回検討委員会(検討内容)

### 検討委員

分野	所属	講師名
全国的な農業・食品業の支援	食と農研究所 代表	加藤 寛昭(座長)
全国的な農業・食品業の支援	株式会社K3 ロジスティクス 代表取締役	四本 和臣
全国的な組織化運営	一般財団法人食品産業センター 振興部	二瓶 徹
全国的な組織化運営	東京大学農学生命科学研究科海洋アライアンス 特任研究員 株式会社アイファイ 代表取締役	千田 良仁
労務管理	キリン社会保険労務士事務所	入来院 重宏

(敬称略)

### 議事次第

日時：2015年1月7日(水) 14時00分～16時30分(予定)

場所：パソナグループ本部ビル 9階 多目的室9Gルーム(東京都千代田区大手町2-6-4)

#### 次第

##### 1 開会挨拶・議事次第説明

###### 1 本日まで出席者紹介

##### 2 議事

###### 1 ブロック会議の開催状況について

###### 2 新農業人フェアの出展状況について

###### 3 地区推進事業者の状況について

###### 4 全国推進事業の状況について(WEB・制作物・ツール等について)

###### 5 最終報告会議(仮称)の開催内容について

###### 6 最終報告書(仮称)の内容について



# 【全国会議・ブロック会議】

## 第1回全国会議「キックオフミーティング」(実施状況)

### 第1回全国会議 参加者

農水省関係者：14名 地区推進：26名 検討委員：5名 取材枠：4名  
 一般参加者：39名（企業14名、官公庁・自治体3名、社団法人・NPO3名、その他9名） **合計88名**

### 式次第

日 時：平成26年7月4日（金）第一部13：30～15：00／第二部15：10～17：00  
 会 場：株式会社パソナグループ 8階

#### 【第一部】キックオフミーティング

- 1 開会
- 2 挨拶  
農林水産大臣政務官 小里 泰弘  
株式会社パソナ農援隊 代表取締役社長 田中 康輔
- 3 講演 「我が国農業をめぐる情勢と援農組織に対する期待について」  
農林水産省生産局農産部技術普及課 佐藤 京子
- 4 パネルディスカッション 「援農隊の可能性について」  
食と農研究所 代表 加藤 寛昭  
NPO法人 南アルプスファームフィールドトリップ 理事長 小野 隆  
NPO法人 生涯の地域活動支援の会 アツマルぎふ 理事長 池田 浩一  
西宇和農業協同組合 営農指導部 課長 菊池 文雄（八西地域農業振興協議会）



#### 【第二部】援農隊マッチング支援事業推進セミナー

- 1 全国推進事業の紹介  
株式会社パソナ農援隊 岩澤 啓之
- 2 各事業者による地区推進事業の紹介  
NPO法人 ほかげ  
農業生産法人 あすファーム松島  
柏農えん 有限責任事業組合  
長野県  
NPO法人 南アルプスファームフィールドトリップ  
とびあ浜松 農業協同組合  
NPO法人 生涯地域活動支援の会 アツマルぎふ  
大阪府  
NPO法人 農楽マッチ勉強会  
兵庫県  
徳島県（鳴門藍住農業支援センター、阿南農業支援センター、徳島農業支援センター）  
八西地域農業振興協議会  
長崎県  
（全13地域15団体）
- 3 講演 「農業の労務管理のポイント」  
キリン社会保険労務士事務所 所長 入来院 重宏
- 4 閉会



## ◆ 平成26年度 農林水産省 援農隊マッチング支援事業 第1回全国会議資料

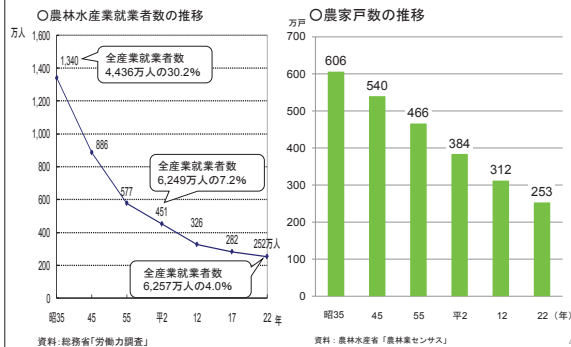
平成26年度農林水産省  
援農隊マッチング支援事業

## 第1回全国会議

我が国農業をめぐる情勢と  
援農組織に対する期待について平成 26 年 7 月  
農林水産省

## 農林水産業就業者数の推移

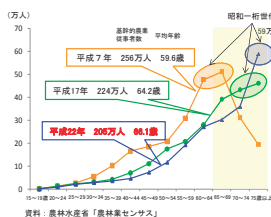
- 農林水産業就業者数は年々減少して現在252万人。  
○全農家戸数についても、昭和35年の606万戸から、平成22年の253万戸へと6割減少。



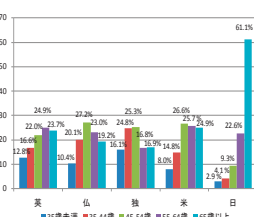
## 担い手の高齢化

平成22年における基幹的農業従事者数は205万人、平均年齢は66.1歳。

## ○基幹的農業従事者の年齢構成



## ○各国の農業従事者の年齢構成

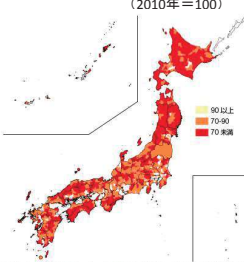


5

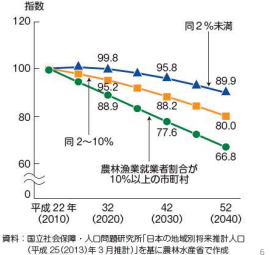
## 過疎化の実態

- 2040年の総人口は全ての都道府県で2010年よりも減少。特に中山間地域で減少率が高い。  
○農林漁業就業者割合で見ると、割合の高い地域(農村地域)で人口減少率が高い。

## ○2040年の市区町村別人口指数 (2010年=100)



## ○市区町村別人口指数の推移 (農林漁業就業者割合) (2010年=100)



6

## 規模拡大における労働力確保の必要性

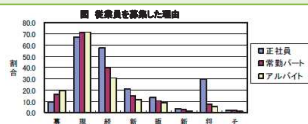
大豆・麦において、作付面積が拡大することにより、土作りや排水対策、雑草防除等の作業に手をかけられなくなる場合がある。  
また、播種等の過期作業が困難になる場合がある。

資料：大豆・麦の低収要因解明に向けた調査（(株)農薬・食品産業技術総合研究機構）

規模拡大を達成した事例では、作業の省力化や雇用による労働力の確保を実施している。

資料：第39回(H26.4.22)食料・農業・農村政策審議会企画部会資料

農業法人等において従業員を募集した理由として、「現状での労働力不足」が最も多く、次に「経営規模の拡大のため」になっている。



7

## 農繁期における労働力の確保について

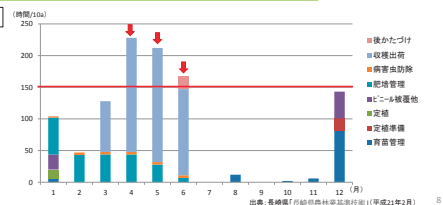
- 経営規模や作目の拡大を図るためには、定植期や収穫期等に一時的に必要な労働力の確保が重要  
○農村地域では、高齢・過疎化の進行により必要な人材の確保が困難

## 作業別の一時的な労働力確保の必要性

## 野菜

苗の定植や収穫期に臨時雇用が必要。収穫期には、収穫作業のみならず、出荷調整のための作業も発生。

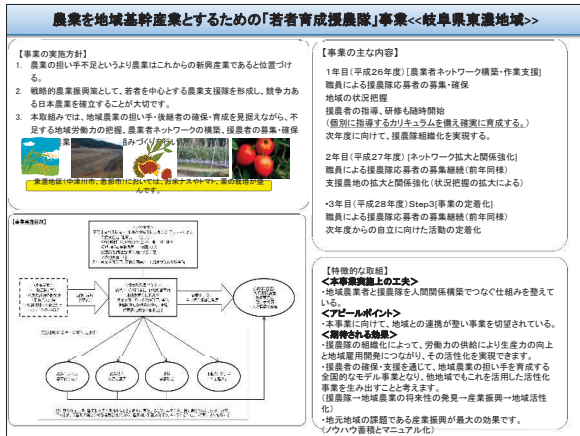
例) 半促成きゅうり



8







## 八西地域農業振興協議会

(愛媛県八西地域)



平成26年度農林水産省

援農隊マッチング支援事業

## 第1回全国会議

【第2部】事業推進セミナー

# 全国推進事業について

## 援農隊マッチング支援事業(全国推進)について

### 【事業趣旨】

収穫期等の繁忙期における労働力を確保するため、地域の状況を踏まえた援農者の確保・育成・組織化等を支援する。

【実施事業者】 株式会社パソナ農援隊（平成26年度）

### 【事業内容】

- (1) 援農隊（農業期等に農作業を支援する援農者の集まり）の取組に関する全国的な情報収集・整備
- (2) 援農隊の効果的な育成手法の検討
- (3) 援農隊の取組に関する全国的な情報交換の促進
- (4) 地域の援農活動を効果的に実施するために必要な支援

### 【実施施策】

(1) 援農隊（農業期等に農作業を支援する援農者の集まり）の取組に関する全国的な情報収集・整備

- ① 地区推進事業者からのヒアリング調査による情報収集
- ② 援農隊の取組に関する優良事例集の作成

(2) 援農隊の効果的な育成手法の検討

- ① 援農隊の全国推進および育成方法に関する検討委員会の開催

(3) 援農隊の取組に関する全国的な情報交換の促進

- ① 全国会議の開催 計6回  
（キックオフ会議：東京、中間会議：4箇所、最終報告会議：東京）
- ② 地区推進事業者様との定例会議の開催
- ③ メール・SNS等での情報交換

(4) 地域の援農活動を効果的に実施するために必要な支援

- ① 援農隊マッチング支援事業のPR（HP、ポスター、チラシの作成）
- ② 援農に関する各種共通フォーマットの作成
- ③ 援農に関する各種リーフレットの作成
- ④ 地区推進事業者が援農隊育成のための研修講師の紹介
- ⑤ 援農模範希望者の紹介

### 【援農隊マッチング支援事業 検討委員会】

食と農研究所 代表 加藤 寛昭（座長）

株式会社K3ロジスティクス 代表取締役 四本 和臣

一般社団法人 食品産業センター 振興部 二瓶 徹

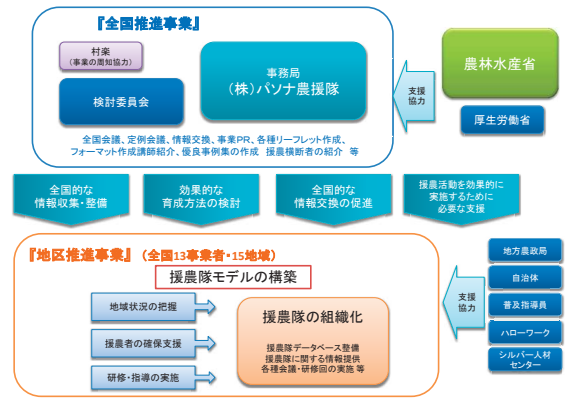
東京大学 農学生命科学研究科 特任研究員

株式会社アイアール 代表取締役 千田 良仁

キリン社会保険労務士事務所 所長 入来院 重宏

独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構  
生物系特定産業技術研究支援センター（生研センター）  
基礎技術研究部 安全人間工学研究（併）特別研究チーム（安全）  
チーム長補佐 主任研究員 博士（農学） 志藤 博克

### 援農隊マッチング支援事業(全国推進) 体制





## 長野県

## 長野県

33

**農工商の連携と効率的雇用システムによる農家経営、産地の発展 <<長野県>>**

**【事業の実施方針】**

- ① 経営発展や体質強化を目指す企業の農業経営体にとって、即戦力となる人材の活用は有効な手段である。一方、農工サービス業では企業の新規参入や事業拡大等により雇用機会が増加し、人材の有効活用が課題となっている。そこで、企業の農業経営体等へこれらの人材が持つ経験や技能の有効活用を促し、新たな経営発展や地域活性化に貢献していただく。
- ② 高齢化や若い手不足による生産量減や農地の荒廃化に対し、一部の経営体は雇用努力により生産を維持しているものの雇入費によるコスト高や優秀な人材不足、また、地域として人材育成システムの構築が難しくなっている。そこで、ヒアリングや関係機関連携、工程管理分析による必要労力の把握、技能習得者の増加支援等により経営体や産地の維持を目指す。

**【事業の主な内容】**

**【事業の組織体制】**

**【特徴的な取組】**

1. 本事業は、農工サービス業で培った知識や技術を持った人材を経営発展や体質強化を目指す企業の農業経営体で活用する見込みの取組である。この取組は、長野県農業を先導する優良経営体の創出につながるものであるが、他の経営体に対してモデルとなることが期待できる。
2. 予め本事業を対象に技術研修会を開催し、農業技術を習得した従業員を確保を行う。これに伴い、マッチングシステムや就業継続の確保を行う。本事業が成功すれば、農家経営をはじめ産地の維持、振興につながるものとなる。また、他地域等への普及も図れるものとなる。

特定非営利活動法人  
南アルプスファームフィールド  
トリップ  
山梨県南アルプス地域

35

**「南アルプス援農検定」を軸とした援農隊の確保・育成<<山梨県南アルプス地域>>**

**【事業の実施方針】**

1. 南アルプス地域は日本一の生産量誇るスモモの産地。収穫・後・出荷などの急務であるが、農業従事者の高齢化に伴う労働力の不足、農地の固定性・期間が長いため、セッターの確保が、従事者のタイマンと常に結果されない問題を抱えている。
2. 農地の手当ての中で、農閑労働や、時間の定めのある労働にはなかなか付けられない時間の融通がきき、なおかつ毎年定期的収入が確保できる機会を確保している。
3. そこで援農イベントを実施しながら、参加者に農業の希望するスキルを習得する機会を提供し、検定合格者のみ実務スタッフとして活用する仕組みを構築すること。将来的な援農隊の育成を目指す。
4. 本取組により、農業者の産地維持に当たり、一層の技能を有したスタッフを確保でき、潜在的な南アルプス農家のファンを拡大する取組が行えます。

**【事業の主な内容】**

26年度  
① 農家の農村交流NPと連携し、農作業の援農ボランティアを募集するマルシェ販売や、農家の農作業を遠征できる体制を作る。  
② 農家の子弟で団体と連携し、農作業の援農ボランティアを募集するマルシェ販売を行う。  
③ 援農ボランティア向けの南アルプス援農検定制度を行い、検定に合格した者に特産品の割引などのインセンティブを与える仕組みを作る。一定以上の技能合格者のうちから援農スタッフとして従事できる仕組みを作る。

27年度  
① 観光客でのマルシェ会場を活用した南アルプス援農検定の実施と登録者の拡大。  
② 子育て団体での南アルプス援農検定の実施と、登録者の拡大。  
③ 援農検定の現地開催と、検定合格者の募集と検定イベントの実施。  
④ 検定合格者の援農ボランティアと農家のマッチング実施とボランティアを仲介した、求職の仕組み作り構築。

28年度  
① 援農検定の都市部事務局の設置。  
② 農家の子弟で世代向け援農検定制度の創設。  
③ 援農検定と援農ボランティアの連携。  
④ 援農検定事務局の創設と合格者向け就労先の確保を行う体制づくり。

**【特徴的な取組】**

- 1 都市生活者の農業志向は年々大きくなっているが、実際の農作業の現場で必要とされるスキルを身につけていない。そこで援農イベントを実施しながら、必要スキルを学ぶ援農検定を実施することで、経験交流を行いながら、援農者を育成する見込みの取組となる。
- 2 子育て団体の母体に対する援農収入モデルを作ることで、農業者と若い世代の交流が生まれ、技術の習得を図る見込みの取組となる。
- 3 本事業が成功すれば、産地の必要とされる人材を確保できること、雇用機会に必要スキルを合格した人への援農を希望する事ができ、全国的に広がるモデルとなる。

## とぴあ浜松農業協同組合

## 静岡県西部地域（浜松市・西海市）

37

**援農隊の創設による園芸産地振興に向けた取組<<静岡県西部地域（浜松市・西海市）>>**

**【事業の実施方針】**

1. JAとぴあ浜松は静岡県内でも有数の園芸作物産地である。園芸作物は機械化が進んでおり、人の手による作業が中心である。
2. 管内農家の平均年齢は64歳で、高齢化が進んでいるため、定年・防除・剪定など作業全般に渡り、労働力が不足している。特に収穫時の労働力不足が顕著で、生産量の減少を招いている。また、若手農業従事者については、収穫時の労働力不足が規模拡大の妨げにもなっている。
3. このため、本事業により各品目で必要な援農者を確保・育成し、作業の維持や規模拡大による所得向上を図る。

**【事業の主な内容】**

<<26年度>>  
・基礎調査の実施  
・援農隊設置検討  
・援農隊員の育成研修  
・援農隊の組織育成支援の実施

<<27年度>>  
・援農隊運営支援

<<28年度>>  
・援農者の本格稼働

**【特徴的な取組】**

1. 当JA特産品による果実加工用へ販路を持ち、販路拡大により組合員所得向上に取り組んでいる。
2. JAが事業実施主体となり、関連企業に対して援農隊の組織構成、育成支援を行う。  
援農隊（アットマナー）育成、スタッフ育成では組合員農家が持つ作業工程を紹介し、現場にて充実した研修が実施できる。

特定非営利活動法人  
生涯の地域活動支援の会  
アツマルぎふ

## 岐阜県東濃地域

39

**農業を地域基幹産業とするための「若者育成援農隊」事業<<岐阜県東濃地域>>**

**【事業の実施方針】**

1. 農業の若い手不足という問題はこれからの新産地であるとして位置づけ。
2. 戦略的農業振興策として、若者を中心とする農業支援隊を形成し、競争力ある日本農業を確立することが大前提である。
3. 本取組では、地域農業の若い手・後継者の確保・育成を図るが、不足する地域労働力の把握、農業者ネットワークの構築、後継者の募集・確保

**【事業の主な内容】**

1年目（平成26年度）「農業者ネットワーク構築・作業支援」  
職員による援農隊の募集・確保  
地域の状況把握  
援農者の指導、研修も随時開始  
（個別に指導するカリキュラムを構築・実施）  
次年度に向けて、援農隊組織化を実現する。

2年目（平成27年度）「ネットワーク拡大と関係強化」  
職員による援農隊の募集・確保（前年同様）  
支援地域の拡大と関係強化（状況把握の拡大による）

3年目（平成28年度）「Step3（事業の定着化）」  
職員による援農隊の募集・確保（前年同様）  
次年度からの自立に向けた活動の定着化

**【特徴的な取組】**

<<本事業実施上の工夫>>  
・地域農業と援農隊を人間関係構築でつなぐ仕組みを整えて

<<アツマルポイント>>  
・本事業に向けて、地域との連携が強い事業を切望されている。

<<期待される効果>>  
・援農隊の組織化によって、労働力の供給により生産力の向上と地域雇用関係につながり、その活性化を実現できます。  
・援農者の確保・支援を通じて、地域農業の若い手育成を育する全国的なモデル事業となり、他地域でもこれを活用した活性化事業を生み出すことと見えます。  
・（援農隊一地域農業の発展性・発展性・発展性）  
・地元地域の課題である産地振興が最大の効果です。（ノウハウ蓄積とマニュアル化）

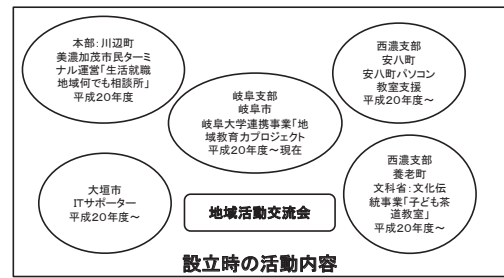


## 特定非営利活動法人 生涯の地域活動支援の会 アツマールぎふ

Since 2007.9.11～  
活動分野  
特定非営利活動全般

発表者 理事長 池田浩一

アツマールぎふの活動目的  
生涯の地域活動の支援をすることで、地域の活力を引き出し、元気な地域を応援することで、広く社会に貢献します。  
(岐阜県生涯学習コーディネーターの会)



HPでの情報発信

地域活動の実施主体としてのテーマの絞り込み  
「青少年健全育成と環境共生社会教育の融合による地域人材育成へ」

青少年健全育成の活動

岐阜大学との連携事業  
H20～23年度  
「大学、地域、学校による  
地域教育力向上プロジェクト」  
・岐阜大学  
教育学部: 辻教授、春日准教授、鹿谷准教授と学生  
・学校  
岐阜市城西小学校(全校児童)対象  
・地域  
NPO法人アツマールぎふ 責任者 山田副理事

プロジェクトの内容  
・軽スポーツ、外遊びなどの指導による小学生の基礎体力向上  
・キンボール、鬼ごっこ、ひょうたん鬼などを教育学部の学生たちと実践  
・陶芸教室における作品制作  
・陶芸技術の伝承と製作体験(十六銀行やショッピングセンターで展示)  
・体力測定の実施(岐阜大学教育学部研究事業)  
・正規の測定方法で正確な体力測定を実施し、全国平均を基に研究

岐阜県青少年健全育成推進活動として、県知事表彰を受ける  
→平成27年度までに、岐阜市小中学校全校でコミュニティスクール施行の先駆け事例

地域活動の実施主体としてのテーマの絞り込み  
「青少年健全育成と環境共生社会教育の融合による地域人材育成へ」

地域農業人材育成から環境共生社会教育との融合

平成22年8月  
苗木津戸区にて地元説明会を実施し、若者の就業による地域人材育成計画を提案し、6軒の農家から賛同  
平成23年度  
ひきこもりの若者3人を就業体験に社会復帰を目指す活動実施  
1名が地元製造業の企業に就職→現在も就業中  
平成24年5月  
中津川市新規就業人材育成事業受託1名の新規就業人材を育成

平成24年4月  
本部移転  
中津川市手賀野

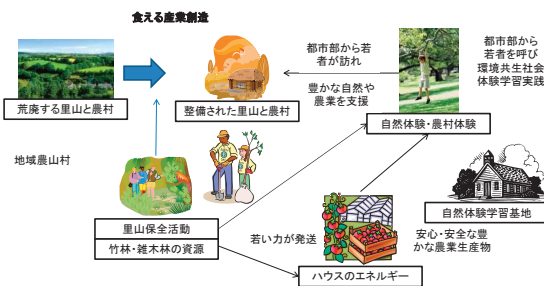
中津川市苗木津戸区を中心に、人と農地プランを展開し、6次産業化による新産業創造によって、若者の地域回帰を目指す活動を中心に展開します。

(株)JA・EVA

平成25年度・岐阜県農林振興課より「田舎ビジネス創出モデル事業」受託  
・田舎で遊ぶ  
・暮らし体験ツアー  
・田舎で学ぶ  
・環境共生学習  
・田舎で貢献  
・農業ヘルパー  
・田舎で暮らす  
・空き家利活用  
平成26年度のビジネス化を目指して、これらの事業を実施します。

小中学生とその家族を中心に田舎暮らしの魅力発信を実施し、若者に向けては地域の魅力や可能性を伝えて、地域人材として次代を担う志を育ててもらえる取組みを考えます。

新時代の地域産業は環境学習から後継者育成にかかっている！



中津川市は、リニア新幹線の通過する未来の中継地点です。古くから中山道の宿場町として栄え、現在はモノづくりのまちです。ここには、豊かな自然と共生社会が今も残っています。しかし、こうした伝統が一つの技術であるとなれば、高齢化する地域住民はまさにこうした技術承継を今行うべきです。

地域の絆モデル



## 特定非営利活動法人 農楽マッチ勉強会

大阪府羽曳野地域

援農者の農業技術向上と農家の作業負担軽減<<大阪府羽曳野地域>>

【事業の実施方針】

1. 大阪府の羽曳野市はぶどうやイチジク等果物の産地であるが、生産農家の高齢化により農産物が減少している状況である。また、大阪府内へ産地としての認知度も低い。
2. 残された農家を支援するにも、援農希望者を集め、農業技術を学ぶ機会、また、交流イベントを行い、産地活性化にもつながる。
3. さらに、この取り組みを各地域に広げて援農者クラブを作り、データベース化することで、農家の要望に合った人材を派遣できる仕組みをつくる。
4. この取り組みにより、援農者の農業技術を高め農家に参入しやすくする。また、農家とのネットワークを構築する。

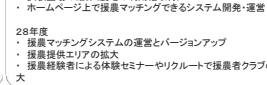


【事業実施体制】



【事業の主な内容】

- 26年度
  - ・地域の現状把握(羽曳野市)
  - ・定期的セミナー開催(援農者を募集)
  - ・農業者勉強会の開催(地域の農家を募集)
  - ・農業主体による技術指導
  - ・協力農家への視察支援
  - ・交流イベントを開催
- 27年度
  - ・援農者のデータベース整理、スキルアップ研修の実施
  - ・試験圃場の確保(農地の利用取得)
  - ・ホームページ上で援農マッチングできるシステム開発・運営
- 28年度
  - ・援農マッチングシステムの運営とバージョンアップ
  - ・援農提供エリアの拡大
  - ・援農経験者による体験セミナーやリクルートで援農者クラブの拡大



【特徴的な取組】

1. 本事業の内容はNPO法人がその組織力を利用して、地域の農業の活性化に寄与する仕組みである。
2. 大阪府内各地域にて、農業に関心のある一般の方へセミナーを開催し、その場を利用して、援農者を募集する。
3. 並行して、地域限定の農業向け勉強会を開催し、その場を利用して技術指導できる農家と、援農者を受け入れる農家を募集する。
4. 農家、一般参加者ともに、当事業の目的をよく理解している人が集まっており、スムーズな展開が可能である。
5. 当セミナーで参加される方は、年齢層が若く、今後の農業を支える人材である。

## NPO法人農楽マッチ勉強会

## 毎月大阪梅田で無料セミナー


 農家向け勉強会  
 農産物料理体験  
 農作業体験


## 理事紹介

- 理事長 山本文則 (中小企業診断士・6次産業化プランナー)  
 副理事長 米虫節夫 (元近畿大学農学部教授・食品安全ネットワーク初代会長)  
 副理事長 岸克行 (中小企業診断士)  
 理事 十河一浩 (コンサルタント)  
 理事 村上弘晃 (会社員)  
 理事 堂山一成 (中小企業診断士・野菜ソムリエ)  
 監事 黒瀬英昭 (弁護士)

51

## 2014.2.14 大雪



## スケジュール

- 1年目(平成26年)  
地域の調査 農家・援農者を募集
- 2年目(平成27年)  
援農者の研修 援農者のデータベース化
- 3年目(平成28年)  
WFB上でマッチングできるシステム開発  
援農エリアの拡大

54

## 兵庫県

## 兵庫県

55

## 兵庫県野菜生産力強化に向けた労働力不足解消への取組&lt;&lt;兵庫県&gt;&gt;

## 【事業の実施方針】

- 兵庫県は、農業農家の野菜生産等からの撤退が進むなど、野菜生産量等の減少を食い止めるには、地域の労働力不足の解消が課題となっている。
- このため、野菜の生産地である神戸、三河地域をモデルに、産地の労働力不足の解消を図る援農システムの構築に取り組み、野菜等の専業農家の規模拡大とともに、兼業農家の生産維持・拡大を推進する。

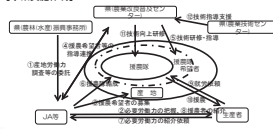


## 【事業の主な内容】

- 26年度
  - 地域の労働力不足等の現状把握
  - 農作業経験の有無に関わらず、幅広く援農希望者を募集
  - 援農(希望)者に対して、知識や技術の習得を支援
  - 雇用する生産者に向けた知識等の習得支援
- 27年度
  - 援農(希望)者援農者を募り支援
  - 労働力が必要な生産者に援農者を紹介(マッチング)
  - 援農(希望)者に対してさらなる技術向上の支援
- 28年度
  - 援農者情報を蓄えて、紹介システムを充実化
  - 継続的に援農希望者の募集や技術習得等の研修を開催

継続的な援農活動による農地の労働力不足を解消

## 【事業実施体制】



## 【特徴的な取組】

- 本事業により、農業改良普及センターとJAが協力して援農(希望)者の育成により円滑な就労を支援
- 計画的な人材育成支援によって、援農者の多品目にわたる長期的な援農活動につながり、持続的な産地の労働力不足が解消
- 非農家でも援農者として活躍できる支援体制を整え、幅広く人材を募り、都市近郊産地の援農システムのモデルを構築

56



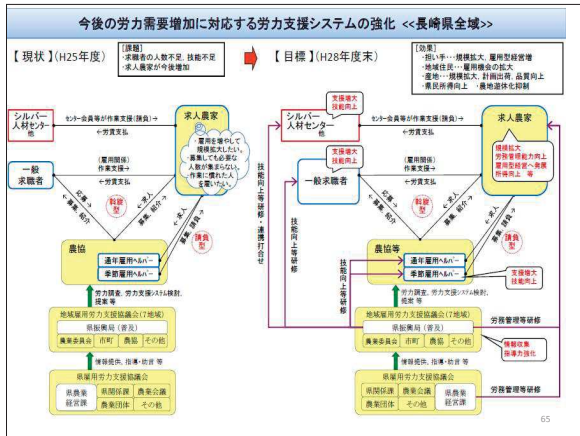
## 57

## 59

## 61

## 62

ながら各地域の



平成26年度農林水産省

援農隊マッチング支援事業

第1回全国会議

【第2部】事業推進セミナー

## 農業の労務管理のポイント

キリン社会保険労務士事務所  
所長 入来院 重宏

## ◆ 平成26年度 援農隊マッチング支援事業 講演テキスト

平成26年7月4日

平成26年度 援農隊マッチング支援事業『第1回全国会議』講演テキスト

## 「農業の労務管理のポイント」

特定社会保険労務士 入来院 重宏

## 目次

I 雇用と責任	
1. 業務災害と補償責任	2
2. 安全に対する配慮	2
3. 従業員の生活保障	3
II 労務管理に必要な知識	
1. 農業の労務管理	4
2. 労働基準法の基礎知識	6
3. 従業員に関する書類	10
4. 労働契約	11
5. 安全衛生の基礎教育	17
6. 就業規則	18
7. 賃金	21
8. 労働時間・休憩・休日	31
9. 休暇	40
10. 年少者等・女性・育児・介護休業法	44
11. 解雇	48
12. 災害補償義務	51
III 安全衛生と健康管理	
1. 安全配慮義務	53
2. 労働安全衛生法と安全管理体制	54
3. 健康診断	56
4. 農作業事故	58
5. 傷害保険	62
IV 労働保険と社会保険の概要	
1. 労働・社会保険の適用	64
2. 労災保険	67
3. 雇用保険制度	73
4. 社会保険	76
V 資料等	
1. 労働・社会保険の手続き	80
2. 雇用契約書	85
3. 労働者名簿	86
4. 勤務状況報告書	87
5. 賃金台帳	88
6. 就業規則意見書	89
7. 就業規則(変更)届	90
8. 解雇予告通知書	91

## ブロック会議 開催報告

### 開催地域：大阪

日 程	11月14日(金)
時 間	13:30～16:30
会 場	大阪・パソナグループビル 4階 研修室4A
会場住所	大阪府大阪市中央区淡路町4-2-15

### 開催地域：東京

日 程	12月3日(水)
時 間	13:30～16:30
会 場	パソナグループ本部 1階 多目的ホールC
会場住所	東京都千代田区大手町2-6-4

### 開催地域：長崎

日 程	11月28日(金)
時 間	13:30～16:30
会 場	長崎西彼農業協同組合(JA長崎せいひ) 本店5階大会議室502
会場住所	長崎県長崎市元船町5-1

### 開催地域：仙台

日 程	12月11日(木)
時 間	13:30～16:30
会 場	TKP仙台カンファレンスセンター 4階 ホール4A
会場住所	宮城県仙台市青葉区花京院1丁目2-3 ソララガーデン

### プログラム案

- 13:00 開場・受付開始
- 13:30 ブロック会議開会  
開会挨拶  
プログラム説明
- 13:40 参加者の紹介(自己紹介)
- 14:00 全国推進からの報告  
(ホームページ、チラシ、各種フォーマット、ガイドブック等について)
- 14:20 地区推進事業の報告(参加地域以外の状況を中心に)
- 14:50 グループワーク  
『援農隊を推進し産地活性化に結び付ける為に』
  - ①現状(課題、取り組み)の共有・分析
  - ②課題解決策・事業の推進の検討
  - ③援農隊の仕組みを活用した産地活性化の方策の検討
- 16:20 閉会の挨拶  
アンケート記入
- 16:30 閉会の挨拶
- 17:00 開場退出

## ブロック会議 大阪(実施状況・アンケート結果)

### 平成26年度 援農隊マッチング支援事業 ブロック会議 参加者名簿

【開催地域】 大阪

【日 程】 11月14日(金)

【時 間】 13:30~16:30(受付13:00~)

【会 場】 大阪・パソナグループビル 4階 研修室4A

【会場住所】 大阪府大阪市中央区淡路町4-2-15

講師(検討委員):2名

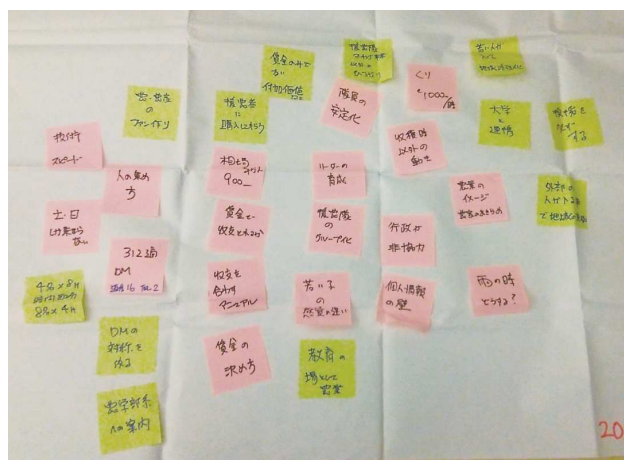
分野	所属	講師名
全国的な農業・食品業の支援	食と農研究所 代表	加藤 寛昭(座長)
全国的な農業・食品業の支援	株式会社K3ロジスティクス 代表取締役	四本 和臣

(敬称略)

農林水産省・農政局:7名

地区推進事業者:8名(NPO法人 アツマルぎふ、徳島県 阿南農業支援センター、とぴあ浜松農業協同組合 宮農指導課、NPO法人農楽マッチ勉強会、兵庫県)

### 実施状況





## アンケート結果

## 問1 会議にはどのような目的で参加しましたか？

- 他の地区は今どのように取り組んでおられるかを聞いて、自分たちの組織に活かしていくために参加しました。
- 他の地区における取り組み情報の収集
- 効果的な事業の推進方法
- 援農隊事業について、他のブロックの方々の取り組み等について勉強させていただきたいと思いました。色んな方面からのアプローチがあると思います。
- 各地での活動の課題を共有し、当地とのギャップや今まで気づいてなかった新たな課題を明らかにする
- 情報交換
- 各地域の取り組みについて、自らの活動の役に立てたく思います
- よばれて
- 援農事業に取り組む各団体との情報交換
- 事業の展開状況を確認するため(課題、それに対する対策等)

## 問2 会議ではどのようなことを得ることができましたか？

- 農協さんの仕事内容がわかりやすく、今後は地元のJAさんと連携していきたいです。
- 課題がみなさん同じものばかりだったので、自分たちも課題解決に向けていっそう努力をしようと思いました。
- 各地区推進事業体の課題やその方策について、勉強になりました。今後の取り組みの参考にしていきたいと思います。
- 人と人との交流、支援する方される方ですが、マッチングさせていただく私たちも足を運んで現状を知る事が大切と感じました。
- 事業実地体の方が「『援農隊』とは何か、何をもって援農隊の組織化といえるのか。」ということを考えていること。(理解できていないこと＝難しい)きちんと説明ができていないといけなと感じた。
- 援農隊の継続的な活動に向けた課題を新たに把握し、今後の活動に反映させていく。
- 具体的に皆さんの活動状況を知ることができ、自分たちの活動に役立つ内容が多々ありました。
- 色々な事業者がいると思った
- 課題の把握と解決策 今後の事業のすすめ方のヒント
- 浜松とびあ:実際に取り組んでいる人からの活しで具体であった。①行政・JAの関係者だけでなく受け入れ側の農参加させている。②援農隊事業をいかに自立させるかが課題 事業展開に関しての向きであるか、考えられる対策はどんなものがあるのかを聞くことができた

## 問3 援農隊マッチング支援事業を進めていく上でどのような支援があるといいですか？

- とにかく1つのNPO団体でできることよりも、「国が支援」していることの方が地域の人の信頼度がかなり高く、国としてPRを進めていただければ、それに関連づけていけると思います。
- 現地研修の実施。
- このような交流も含めて他の地区の方の取り組みの成果等をお知らせいただきたいです。
- 全国的な活動。さらなる共有。現地を見に行けるとさらにイメージしやすい。
- 個別の問題を解決してもらう為、適時個別の指導を頂ければ幸いです。
- 人材についての法的な制約などがある場合がありますのでそういう情報が交換できればよい
- 農家の個別情報(作物別)
- 全国で同様の事業に取り組む団体の情報案内
- 援農者向けの宿泊施設…域内に宿泊施設がなく他地区からの援農者を送り込めない為。

## 問4 感想・ご要望など

- 先のことを真剣に考えておられる方々とお話しできてとても勉強になりました。
- 取り組みへの課題や方策について共有できました。
- はじめは何をするのか不安でしたが、他の地区の方々と話し合えて、大変参考になった。
- 今後の活動の継続と、参同者の増加、拡大を進めていきたいと思います。
- 自分のところの取り組みが遅れていると感じた
- ありがとうございました。
- 今回の討議内容を他の地域の人に聞かせたい(情報共有)

# ブロック会議 長崎(実施状況・アンケート結果)

## 平成26年度 援農隊マッチング支援事業 ブロック会議 参加者名簿

【開催地域】 長崎

【日 程】 11月28日(金)

【時 間】 13:30~16:30(受付13:00~)

【会 場】 長崎西彼農業協同組合(JA長崎せいひ)本店5階 大会議室502

【会場住所】 長崎県長崎市元船町5-1

講師(検討委員):2名

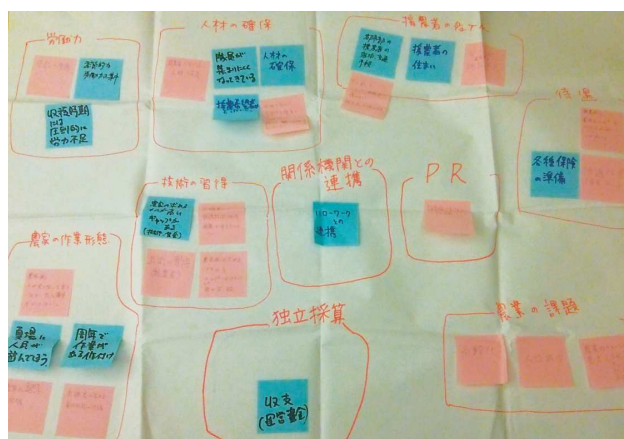
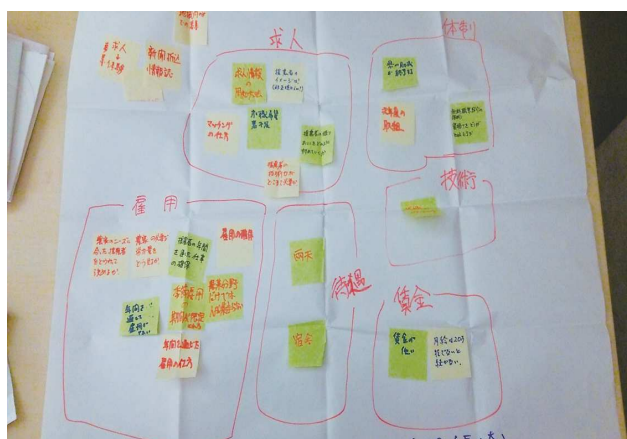
分野	所属	講師名
全国的な農業・食品業の支援	食と農研究所 代表	加藤 寛昭(座長)
全国的な農業・食品業の支援	株式会社K3ロジスティクス 代表取締役	四本 和臣

(敬称略)

農林水産省・農政局:2名

地区推進事業者、関係者:28名(JAにしよう 営農指導部農家支援課、愛媛県 南予地方局八幡浜支局地域農業室、愛媛県 南予地方局八幡浜支局、沖縄畑人くらぶ、徳島県 鳴門藍住農業支援センター、徳島県 徳島農業支援センター、長崎県農業協同組合中央会、長崎西彼農業協同組合、長崎県央農業協同組合、島原雲仙農業協同組合、ごとう農業協同組合、杵岐市農業協同組合、長崎県県央振興局、長崎県島原振興局、長崎県県北振興局、長崎県五島振興局、長崎県杵岐振興局、長崎県対馬振興局、長崎県農業経営課)

## 実施状況





## アンケート結果

### 問1 会議にはどのような目的で参加しましたか？

- 島原地域で労力支援の方法について検討していますので有益情報を得たいと思って参加しました。
- 援農隊マッチング支援事業について他の所の意見を聞きにきた。
- 労力支援の事例情報を得たかった。
- 文書で案内があり、参加をすすめられてから
- 他県の実施状況を知るため
- 労力支援事業に関する情報収集。
- // (労力支援に関する)課題解決のヒントにしたい。
- 他の地区の実態を知るため
- 園芸部門で労力システムが新たに始動する中(11/1～)、他県、他地区の先進事例をぜひ参考にしたいと思ったため。
- 他地域の様子、取りくみについて学びたかったので。
- 労力支援事業を行う上で、今後の参考と自分の勉強のため。
- 他県の事例確認(他県の課題にどのように対応しているのか)
- 労力(外部)確保に向けた新たな取組み等に関する知見の取得
- 事例収集
- 労力確保対策としてシルバー人材センターとの連携を計画したが、労力としては不十分、他の確保対策を知るために情報収集の目的で参加しました。
- 事業をすすめる上での課題解決の見本とさせて頂きたく、思い。
- 担当地域における労力支援の在り方、手法等の参考とするため
- マッチング支援事業に関する業務をしているだけ、他県の取り組みを勉強したくて
- 他県の優良事例情報の収集、他県及びパソナの援農関連情報の収集
- 参考にできる他県の優良事例情報の収集、他県及びパソナの援農関連情報の収集
- 参考にできる他県の優良事例情報の収集、他県及びパソナの援農関連情報の収集

### 問2 会議ではどのようなことを得ることができましたか？

- 他県の取り組みが参考になりました。ボランティアなど
- アルバイトの利用、空家の利用など色々と勉強になりました。
- 全国の取組み事例の情報
- 九州以外の人意見を聞く事が出来た
- 直面している内容はどこも同じ内容であることが確認できました
- ボランティアや学生を活用する手法と課題について学べた
- 他地区における問題点・課題点
- 県内ではまだ事例のない他県のとりくみがとても参考になり、そこでの現状の話を実際に聞く事ができてよかった。
- 色々と有意義でした。
- 他地域の課題に共通点があって勉強になった。
- 他県の事例、特にアルバイト、ボランティア活用事例。
- 自分と同じ意見や、その他いろんな意見を聞く事で、広い視野で今後の事、仕事に役立てればと思う。
- 課題、問題に対する体系立った整理が、まだまだ必要だということを再認識
- 労力の確保に向けた情報発信の手法、確保の手段の取組 など
- PRが必要



- 他地域の取り組み事例アルバイトをシャトルバスで運んでいるなど 次年取り組みを考えている活動を実際に行っている地域があった。
- 他地区の事例
- 援農者への必要な支援、PRの重要性等
- 同じような課題での悩み、様々な対策をされているので、活動のヒントをいただけた
- 援農者確保方法等の諸課題の共有（解決策のひらめきには至らず）
- 地区ごとに事業の進捗状況が違い、当面の課題も異なっているため、西宇和で課題となっている宿泊施設関連で得る情報がなかった。
- グループワークによって、援農に対する関係者の考え方の違い、他組織の活動事例の収集

### 問3 援農隊マッチング支援事業を進めていく上でどのような支援があるといいですか？

- 継続した事業 行政主導の整備事業
- 農家の受入れ体制
- 働き手が求人情報を得る仕組み
- 求人の仕方を掘り下げる必要がある
- 行政からの支援（補助金）
- 事業運営にかかるコストと農家が支払える利用料とのギャップに対する一部助成
- 県の事業のけいぞく
- 雇用受け入れの環境整備に対する支援 例）援農者の交通、宿泊費、宿泊や地元店で使えるクーポン券 住み込み受入農家の募集チラシ 空き家リスト作成……
- PRをもっとしてほしいです。
- Webサイト、楽しみです。
- 農作業のきついイメージふっしょく。受入側の安全管理体制の取組例紹介
- 支援者を集めるための施設、農家サイドの待遇の見直しが必要のため、支援者を招集した上での意見交換会。
- 請負方式でやる場合の農家との共同作業が不可という労働法上の問題クリア
- 環境整備に向けた支援（施設整備に対する一部助成など）
- 体制づくり
- 補助対象範囲の拡大。今の事業では方針を決めるまでのサポートはあるが、実際に取り組もうとすると全て自己負担となる。軌道に乗るまでは試行錯誤をくり返すことになるので、方法が安定するまでの経費を補助対象としてほしい
- 今回のような情報交換
- 取り組みがうまくいっている集団の成功事例のホームページ等での紹介（取り組みでの重要ポイント）、失敗事例とその原因等含む）
- 視察先の紹介
- ちょっとした相談ができる機関等の設置
- 宿泊施設の整備
- システル運営に対する支援 農業以外の産業との連携
- 全国を行脚するアルバイトの組織化、データベース化、情報共有
- 事業取り組み地区のネットワークづくり
- パソナによる全国の援農関係情報の開示
- セキュリティを伴う援農者情報の共有

### 問4 感想・ご要望など

- 大変参考になりました。
- 大変勉強になりました。ありがとうございました。
- とても楽しかったです！
- ボランティアという話が出たが、ボランティアが事故にあった場合の責任の所在は？というように全国レベルでも法的な未整理部分は多い
- 他県のいろいろな事例を聞くことができました。ありがとうございました。
- 担当地域と同じような問題を持つ地域も多く、それでも様々な手法で積極的に継続されている点は参考になった。取り組みそうな可能性があるものについては関係機関とともに積極的に取り組んでいきたいと思った。
- グループワークの時間がもう少しほしかった。
- 大変勉強になりました。
- グループワークの時間が短く、討議も一つの課題に絞られ、限定的。グループに分かれても討議の内容がほとんど同じ。
- パソナへの要望：事業取り組みに限らず援農者の情報等の共有ができる体制整備
- 事業に取り組んでいる地区ごとの特色ある取り組みを収集できる、事業の進捗状況や援農に対する考え方に差があるため、100%の回答がない



## ブロック会議 東京(実施状況・アンケート結果)

### 平成26年度 援農隊マッチング支援事業 ブロック会議 参加者名簿

【開催地域】 東京  
 【日 程】 12月3日(水)  
 【時 間】 13:30～16:30(受付13:00～)  
 【会 場】 パソナグループ本部 1階多目的ホールC  
 【会場住所】 東京都千代田区大手町2-6-4

講師(検討委員):2名

分野	所属	講師名
	一般社団法人 村楽	東 大史
労務管理	キリン社会保険労務士事務所	入来院 重宏

(敬称略)

農林水産省・農政局:5名

地区推進事業者:5名(長野県 農政部農業技術課、徳島県 阿南農業支援センター、柏農えん有限責任事業組合、NPO法人南アルプスファームフィールドトリップ)

### 実施状況



### アンケート結果

#### 問1 会議にはどのような目的で参加しましたか？

- 阿南農業支援センターは「阿南那賀地域の労力サポートシステムの確立」をテーマに援農隊マッチング支援事業に取り組んでいる。ブロック会議には主担当者が大阪での会議に参加しているものの、より幅広い情報を得るため本ブロック会議(東京)に参加したもの
- 他地域の情報収集

#### 問2 会議ではどのようなことを得ることができましたか？

- 都市部では都市近郊での悩みがあることがよくわかりました。いい勉強になりました。
- 人材募集の難しさは、経済にある事を改めて実感した。

#### 問3 援農隊マッチング支援事業を進めていく上でどのような支援があるといいですか？

- 体験ボランティアの支援でしょうか？ 地域の農業理解促進支援が重要かと
- 講師の無償派遣など

#### 問4 感想・ご要望など

- 他の地域の方の声を聞くことがありがたかったです。
- もう少し実りのあるワークショップだとうれしい

## ブロック会議 仙台(実施状況・アンケート結果)

## 平成26年度 援農隊マッチング支援事業 ブロック会議 参加者名簿

【開催地域】 仙台

【日 程】 12月11日 (木)

【時 間】 13：30～16：30（受付13：00～）

【会 場】 TKP仙台カンファレンスセンター 4階 ホール4A

【会場住所】 宮城県仙台市青葉区花京院1丁目2-3 ソララガーデン

講師(検討委員):2名

分野	所属	講師名
全国的な農業・食品業の支援	食と農研究所 代表	加藤 寛昭(座長)
全国的な組織化運営	東京大学農学生命科学研究科海洋アライアンス 特任研究員 株式会社アイファイ 代表取締役	千田 良仁

(敬称略)

農林水産省・農政局:3名

地区推進事業者、関係者：5名（NPO法人ほかげ、株式会社あすファーム松島、株式会社プロジェクト地域活性）

来年度参画検討自治体：7名（山形県農林水産部園芸農業推進課、山形県東根市経済部農林課農政係、山形県寒河江市農林課、株式会社ネクスト・レボリューション）

## 実施状況



## アンケート結果

## 問1 会議にはどのような目的で参加しましたか？

- 来年度以降、県内で事業申請を推めるにあたり、現在実地されている方々の状況を聞いてみたかったから
- 農繁期における労働力の確保が本市農業においても急務となっているため、本年事業の概要を実際に事業を行っている方々の声を聞けるということで参加しました。
- さくらんぼの収穫時期の人手不足が深刻なため、解決策として勉強したいと思い参加しました。
- 現在、募集マッチングの段階で課題が出ているため、まずは課題解決の糸口をつかみたいとの目的。
- 今後取り組むべき内容として農業の人材バンクを整備すべきと前々から考えていたため
- 現在直面している問題に対し、どのような解決策があるか他の人の意見を聞きつつ見つけたい
- 援農隊に対して、どのような課題があるのか、解決策があるのか学ぶために参加した。
- 自分たちだけではまだ見えていない課題等を、他エリアの状況等を聞きながら、整理したい。
- 先進的な取組についての情報収集
- 本事業の有効な活用方法
- さくらんぼの雇用確保に何かいいきっかけとなれば、と思い参加
- 事業についてのノウハウを研修するために参加
- 地区推進の事業主体として

## 問2 会議ではどのようなことを得ることができましたか？

- これまで気が付いていなかったことを、話しをしているうちに気付かせてもらえた。ワークショップで話げたことは良かった。
- 松島町のあすファーム松島や、NPO法人ほかげなどつながりを持って今後何かあれば相談できると考えました。またターゲットのヒントを得ることができました。
- 大学生や自衛隊というターゲットも新たに加えたい。その他、将来の自立化に向けた課題等の共有。
- 今後事業展開するにあたっての心構えができました。
- 今後の課題を新たに見つけた
- 新たなターゲット層
- 見えていない新たな展開を見つけ出せた。ターゲット
- 取組の状況(他実施者)
- 本事業の活用できるツール
- 援農隊を募集するにあたって、ターゲットをどこへむけるか、どのような方法で行うかが問題となる⇒それで効果的な募集となるかが決まる。
- 実際に行っている方より話を聴く事ができて、大変参考になった
- 北海道と他地域の条件・状況が大きく違っているということ。援農以前の段階にいくつかのヒントがあるということ

## 問3 援農隊マッチング支援事業を進めていく上でどのような支援があるといいですか？

- 組織づくりまでの支援に加え、実際に募集をかけて援農事業をすすめる初期段階まで含めた支援をお願いしたい。
- 受入側への支援、具体的には、例えば大学生の交通手段、シェアハウスの整備等について支援があればいいと思います。
- 援農隊の募集に関する、農水省からの支援。特にハローワーク等への同行など。
- 新しい形の新規就農、空き家屋を利用した転居・転職を支援し、総合的に農業振興が図られる内容
- 他の県での事例を教えてください など
- 大学などの学生とのつながりがあるといいのかなと感じた。
- 全国の情報をもっと知りたい、その現場に行きたい。
- 始まったばかりの事業なので、活動している団体からの指導(今回のような研修会)や補助事業(補助金)についての具体的な指導が欲しいと感じた。
- 計画推進の変更、修正をすることができる仕組み

## 問4 感想・ご要望など

- 実際に事業を行っている方々の声を聞くことができ、参考となりました。
- 今後こういった会議があればまた参加したいと思います。
- 当初考えていた「松島型援農モデル」が、事業を開始するまでに大きく変わってきてしまったため、初年度の事業であるので、もう少し挑戦的な取組みを支援頂けるとありがたいと思います。(例:企業へのアプローチなど)
- 急な参加申し込みでしたが、ありがとうございました。
- 大変勉強になりました。今後の参考にしたいと思います。
- すでに援農について取り組んでいる先進事例の紹介をお願いしたい。
- 様々な先進事例を聞くことができ参考になりました。
- グループワークを通して、気付いていくことが多く、参考になった。

## 第2回全国会議「援農隊マッチングフェア」 援農隊マッチング支援事業報告会&援農交流会

### 第2回全国会議 参加者

農水省関係者：4名 地区推進：23名 検討委員：5名

一般参加者：48名（企業18名、官公庁・自治体6名、社団法人・NPO5名、その他19名） ゲスト：2名 合計44名

### 式次第

日 時：3月9日（月）13：00～18：00（受付開始12：30～）

第1部：13：00～15：45／第2部：16：00～18：00

会 場：パソナグループ本部ビル 8階ホール（東京都千代田区大手町2-6-4）

#### 【第1部】事業報告会

##### 1 開会

##### 2 挨拶

農林水産省 生産局 農産部 技術普及課長 榊 浩行

株式会社パソナ農援隊 代表取締役社長 伊藤 真人

##### 3 全国推進事業者からの報告（パソナ農援隊）

##### 4 地区推進事業者からの報告（16地域）

- ①特定非営利活動法人ほかげ
- ②農業生産法人 株式会社あすファーム松島
- ③柏農えん有限責任事業組合
- ④長野県
- ⑤特定非営利活動法人 南アルプスファームフィールドトリップ
- ⑥とぴあ浜松農業協同組合
- ⑦特定非営利活動法人生涯の地域活動支援の会アツマールぎふ
- ⑧大阪府
- ⑨特定非営利活動法人 農楽マッチ勉強会
- ⑩兵庫県
- ⑪徳島県鳴門藍住農業支援センター
- ⑫徳島県阿南農業支援センター
- ⑬徳島県徳島農業支援センター
- ⑭西宇和みかん支援隊（八西地域農業振興協議会）
- ⑮長崎県
- ⑯沖縄畑人くらぶ

##### 5 パネルディスカッション 『援農隊の更なる推進に向けて』

ファシリテーター：四本 和臣氏（検討委員）

西宇和みかん支援隊（八西地域農業振興協議会） 兵頭 洋仁氏

特定非営利活動法人ほかげ 野間 克実氏

沖縄畑人くらぶ 小泉 伸弥氏



## 6 全体総括

加藤 寛昭氏（検討委員）

## 7 第1部閉会

## 【第2部】 援農マッチング交流会

## 1 第2部開会

## 2 挨拶（パソナ農援隊）

## 3 パネルディスカッション 『援農で地域を元気に！』

ファシリテーター：千田 良仁氏（検討委員）

一般社団法人Vコミュニティ 代表理事 牛飼 勇太氏

田畑と森と海でつながる学生団体 代表 霜田 直人氏

特定非営利活動法人南アルプスファームフィールドトリップ 小野 隆氏

特定非営利活動法人農楽マッチ勉強会 山本文則氏

柏農えん有限責任事業組合 関根 勝敏氏

## 4 第2部閉会

## 実施状況



## ◆ 平成26年度 農林水産省 援農隊マッチング支援事業 第2回全国会議第1部資料

農林水産省「平成26年度 援農隊マッチング支援事業」  
平成26年度報告会議「援農隊マッチングフェア」  
援農隊マッチング支援事業報告会&援農交流会

日時：3月9日（月）13：00～15：45  
会場：パソナグループ本部 8階ホール

## 第1部資料

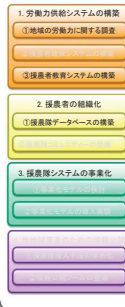


地区推進事業者からの報告発表

特定非営利活動法人ほかにず（北海道平取町）

経営工学手法による『継続できる援農隊マッチングシステム』開発事業（北海道平取町地域）

## 【事業の主な内容】



## ●調査と考察

- ・地域内の不足する労働力と時期
- ・既存の作業と標準化について
- ・既存の援農者確保の手立て
- ・他地域の状況

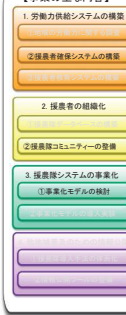
## ●準備

- ・援農者確保
- ・援農隊コミュニティ

- ＊経営工学手法による科学的管理
- ＊作業の標準化と他業種における労務管理の組合せ
- ＊組織化を進展させた援農隊コミュニティづくり
- ＊若者の学び欲求の労働力化 → 就農、移住

経営工学手法による『継続できる援農隊マッチングシステム』開発事業（北海道平取町地域）

## 【事業の主な内容】



## ●事業化できる仕組み

- ・地域内の不足する労働力と時期
- ・既存の作業と標準化について
- ・既存の援農者確保の手立て
- ・他地域の状況

## ●学生・若者・よそ者の活用

- ・援農者確保
- ・援農隊コミュニティ

◎農山漁村ワーキングホリデー

◎援農隊コミュニティ

◎大学での援農サークル

農業生産法人株式会社あすファーム松島（宮城県松島町）

## 【団体名】農業生産法人 株式会社あすファーム松島

## 【テーマ】

松島町の農業の実態を知り、地域にあった援農隊の組織化に向けて

## 【実施内容】

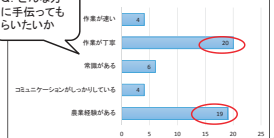
## ①松島の農業労働力調査の実施

（地区会長、及びJAの営農センター社員に実施）

・松島の農繁期に求められている農作業の種類や労働力の供給状況を把握した。

項目	内容
主な作物	水稲、ナス、トマト、ジャガイモ 他
農繁期	春から秋にかけて
作業内容	草刈り、収穫、定植

Q. どんな方に手伝ってもらいたいか



## 【実施内容】

## ②援農隊の募集説明会実施

- ・実施日：平成27年2月10日 14：00～
- ・援農隊の概要説明と希望者に面接を実施
- ・9名の方が集まった

## ③企業へのヒアリング

- ・法改正のため、定年延長への企業の取組み状況と援農の可能性、農業でのセカンドキャリアの可能性をヒアリング

## 【成果・課題等】

- ・「農家の農繁期のお手伝いをするという働き方」のニーズがあった
- ・援農者には、「速さ、コミュニケーションよりも作業の丁寧さや経験が重視されている」ことから、事前研修の重要性を知った。



応用可能な農業技術の習得  
（農業技術研修マニュアル、受け入れマニュアルの作成）

## 【今後の展望】

- ・援農隊員の募集強化
- ・援農隊の援農範囲や受け入れ農家の範囲について検討



＜説明会の様子＞

柏農えん有限責任事業組合（千葉県柏地域）

【団体名】  
柏農えん有限責任事業組合（以下「LLP」）※組合員は8名

【テーマ】  
農業塾の運営による地元農業の活性化

【実施内容】  
①「繁忙期に労働力が欲しい」「規模拡大したい」というような農業者の困りごと解決

②「地域に貢献する活動をしたい」「仲間をつくりたい」というような高齢者の生きがい創出

上記2点を結びつける組合組織としてLLPが設立され、農業現場での高齢者の活躍が期待された。そこで、農作業経験のない高齢者が援農活動へ行く前に、最低限の知識とノウハウを習得するため、「農業塾」を実施することとなった。

農業塾は1年間を通して、実地研修（週1回）と座学研修（年3回程度）が行われる。実地研修ではLLP組合員の農業者が講師となり、様々な露地野菜と水稻を播種～収穫まで行う。

【成果・課題 等】

・高齢者の生きがい創出。「活動は毎週数時間であるが、生活にハリが出た」「首で汗して働く中で仲間ができた」等の感想が多くあった。なかには、農業塾で習得した知識・ノウハウを活用して、就労した者もある。



・農業塾という研修システムの構築。高齢者が援農前に、農業の知識とノウハウを習得することができた。また、農業に対する理解を実地と座学を通して学ぶことで、農業者と高齢者との「気持ちのミスマッチ」が解消した。

・即戦力の育成・確保。事業規模を拡大するには、より知識とノウハウを身につけた人材（即戦力）が求められる。そのためには、農業塾の充実と現場での経験蓄積による人材育成・確保が課題である。

・高齢者の受け入れ態勢の確立。多くの高齢者が農業現場で援農するには、受け入れ態勢の拡充が不可欠である。

【今後の展望】

・援農隊のメンバー（農業塾生）と農家との間で、労務管理等の調整を行う人材の育成を目指す。

・組合保有の園場にて民間企業との契約栽培を試み、組合の継続的運営が可能な収益の獲得を目指す。

2015/3/17



長野県（長野県）

## 【長野県】 異業種人材活用マッチングサポート事業

■ 実施内容

- 1 市町村、JA等との連携会議の開催
- 2 企業の農業経営体の体質強化や経営発展への意欲喚起のための研修会の実施
- 3 産地や農家経営の維持、発展のための必要労働力の聞き取り調査
- 4 援農者への農業技術指導

研修会 開催数	参加人数	援農者数	受入農家数
6	71	48	27

■ 成果・課題 等

- 1 地域の実状に見合った援農システムの研究
- 2 農業者のニーズに見合った援農者の確保
- 3 援農者を雇用し続けられる経営の確立

■ 今後の展望

- 1 援農システムの仕組みづくりと試行
- 2 他産業従事者への本事業のPR



特定非営利活動法人南アルプスファームフィールドトリップ  
（山梨県南アルプス地域）

【団体名】特定非営利活動法人 南アルプスファームフィールドトリップ  
【テーマ】『「南アルプス援農検定」を軸とした援農隊の確保・育成』

【事業方針】

● 課題：南アルプス地域は日本一の生産量を誇るスモモを始め、桜桃・桃・葡萄などの産地ですが、農業従事者の高齢化に伴う耕作放棄地の増加と、果樹の剪定技術に時間がかかることから、せっかくの成園が、従事者のリタイヤと共に継承されない問題を抱えています。

県内の子育て中のママさんは、長期間労働や、時間の定めのある労働にはなかなか付けないため、融通がきき、なおかつ毎年定期的収入が確保できる仕事を希望しています。

● 目的：そこで援農イベントを実施しながら、参加者に農家の希望するスキルを習得する援農検定を行います。検定合格者のみ有償スタッフとして登録する仕組みを構築することで、潜在的な援農応援者を確保します。

本取組により、農業者の産地維持にあたり、一定量の技能を有したスタッフを確保でき、潜在的な南アルプス果実のファンを拡大する取組が行えます。

【主な実施内容】

- 県外の農村交流NPOと連携し、果樹作業の援農ボランティアを募り都市でのマルシェ販売や、農園での農作業を通年確保できる体制を作る。
- 県内の子育て団体と連携し、農作業の援農チームを登録し、繁忙期の農作業従事を希望するママさんの確保を行う。
- 援農ボランティア向けの南アルプス援農検定制度を行い、検定に合格した者に特産品の割引などのインセンティブを与える仕組みを作ると共に、一定以上の技能合格者の中から有給スタッフとして作業に従事できる仕組みを作る。



とびあ浜松農業協同組合（静岡県浜松市・湖西市）

【団体名】とびあ浜松農業協同組合

【テーマ】援農隊の創設による園芸産地振興に向けた取組

【実施内容】 基礎調査の実施  
先進地視察（北海道 JA農道）  
援農隊設置の検討  
援農隊研修

【成果・課題 等】

基礎調査：単位面積当たりの作業時間、必要労働力を把握作業完了目標時間を設定した。  
目標32時間/10アール

先進地視察：機械収穫の現状・課題把握 収穫委託業者の運営実態・課題把握

援農隊員募集：幼稚園に子供を預ける母親層がターゲット

援農隊研修：①高率による作業内容説明

②出荷可否判定マニュアルを映像で説明

③包丁を使用した収穫実地研修

作業パターンを覚えて実施することで、当地区に合った1番効率の良い方法を見つけた

【今後の展望】

農隊運営支援：援農隊運営技術（労務管理等）

収穫技術の確立

作業委託面積の取り纏め、作業計画の作成及び日程調整

特定非営利活動法人生涯地域活動支援の会アツマルぎふ（岐阜県東濃地域）

【団体名】特定非営利活動法人 生涯の地域活動支援の会 アツマルぎふ

（略称：NPO法人アツマルぎふ）

【テーマ】援農隊組織化メンバーの確保と、農家の現状調査、援農者の育成について

【実施内容】

・地元農家の生産状況調査の実施  
・作業支援の要望調査と農業者ネットワークの構築  
・援農隊組織化のための広域活動、募集活動の実施  
・援農者の研修内容の検討・実施 等

【成果・課題 等】

＜成果＞  
・地域の現状を把握し、若い人材を育成する方法について皆で考え行動する人が増えた。

＜課題＞

・農家に比べて若い人は技術的にも管理の面で課題を感じるのだが、指導方法がわからない。⇒援農者の育成だけでなく、農業者の指導方法についてもがマニュアル・マニュアル化が必要なのか？  
――指導の支援のみでは、課題が大きい。事後・定住する人とその支援者という関係構築が必要だ。

【今後の展望】

・援農というよりも、新規就農でも組織の大きさを懸念がないと農家でできるものが増えない。  
産地としても、メンバーが高齢化していると組織は壊れない。まず、若い世代を育てること。  
（視野を広げてでも人材を育てること。）  
・農業者ネットワークがなくても、生計をたて出す仕組みを待たないと壊れない。  
農地だけでなく農家の働きが必要なのでは？。地域活性化のための仕組みづくりを行う。



大阪府（大阪府）

【団体名】大阪府

【テーマ】援農組織のスキルアップ及び高度な技術をもつ援農者の育成

【実施内容】・援農組織のスキルアップを図るため、農業機械の講習等を実施。  
・高度な援農候補者を育成するため、先進農家のもとで実地研修を実施。

【成果・課題 等】・援農組織へのスキルアップ講習実施（4団体）  
・先進農家のもとで研修実施（9名見込み）  
★課題は、研修実施に向けた援農候補者と農家のマッチング

【今後の展望】・援農組織のスキルアップによる援農拡大  
・高度な技術を習得した者による援農実施



▲ 農業機械の講習会の様子



▲ 先進農家での実地研修の様子

特定非営利活動法人農業マッチ勉強会（大阪府羽曳野地域）

【団体名】NPO法人農業マッチ勉強会

【テーマ】援農者の農業技術向上と農家の作業負担軽減

【実施内容】大阪府羽曳野市でぶどう・いちじくの産学研修・実務研修を行う

【成果・課題 等】12月より毎月援農隊員募集説明会と受入れ農家募集説明会を行っている。  
対象エリア外の農家からの相談は多数あったが、羽曳野のぶどう農家といちじく農家の参加が少ないのが課題になっている。



【今後の展望】夏に向けて収穫シーズンに入るので実地研修を増やし、援農隊員の確保とレベルアップを図る





八西地域農業振興協議会（愛媛県八西地域）

【団体名】西宇和みかん支援隊

【テーマ】みかんブランド産地の狙い手・産農者の確保・育成

【実施内容】

1 支援隊の設置・立上げ 5/22

2 支援隊の広報活動

- (1) 市町・JA等による管内農業者への周知  
(2) 支援隊HP・Facebookによる就業・就業情報の発信



3 雇用労働力調査

西宇和管内の実態を把握し、将来需要をシュミレーション

4 労働力確保

- (1) 都市部での就業・就業相談会  
東京・大阪で7回 松山1回  
(2) 八幡浜お手伝いプロジェクト  
松山での定例説明会3回 農家との交流会2回 事前研修会2回  
リスク軽減策（シャトルバス運行4回、指定宿泊所利用）  
(3) 真穴みかんの雇アルバイター事業  
東京・大阪で250人と面談 農家との対面式・交流会  
(4) 大学連携推進システム事業  
愛媛大学、松山大学の農作業ボランティア4回

- (5) 無料職業紹介事業  
近隣市町の就職新聞に折り込み25,000部  
(6) JAにしろわ農作業支援事業  
随時職員13人を雇用（各緊急雇用事業活用）  
(7) 農業体験ステイ事業  
農家に関心を持つ都市青年が農作業と農家生活を体験  
(8) ワーキングシェア活動  
県内企業及び関係JAとの労働補充

5 狙い手育成・定着活動

管内3地区にモデル地区を設置し、地域ぐるみで狙い手の育成・定着に特化した活動を展開

【成果】

- (1) 都市部での就業・就業相談会  
就業相談数131件 情報相互交換 スタイ事業へ3件  
(2) 八幡浜お手伝いプロジェクト  
ワーカー登録数73名 実働数105人  
(3) 真穴みかんの雇アルバイター事業  
応募者数241名 受け入れバイター153名  
(4) 大学連携推進システム事業  
参加したボランティア活動 オレンジサークル発足（松山大学）  
(5) 無料職業紹介事業  
紹介者34名 農家要員数73戸 延べ170人役



(6) JAにしろわ農作業支援事業

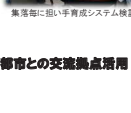
作業員13名で1345人役（12月末現在）

(7) 農業体験ステイ事業

ステイ農家登録戸数10戸 体験実績3件

(8) ワーキングシェア活動

県内企業（大和ハウス、伊予銀行等）  
関係JA（近隣JA、北海道JAらら）



【課題】

- (1) 宿泊施設の整備  
(2) 余剰労働力の地域内流動  
(3) 労働能力の高位平準化  
(4) 地域ごとの狙い手・就業システムづくり

【今後の課題】

- (1) 宿泊施設の建設  
農校利用による狙い手、アルバイターの宿泊場所の確保及び都市との交流拠点活用  
(2) 余剰労働力（若人・婦人）やスペシャリストの地域内流動  
(3) 産農者個々の能力向上  
リピーターの確保と研修カリキュラムの充実  
(4) 地域ごとの狙い手・就業システムづくり

長崎県（長崎県）

【団体名】長崎県

【テーマ】 今後の労働力需要増加に対応する労働力支援システムの強化  
～シルバー人材センターとの連携による農業者の確保～

【実施内容】 シルバー人材センターとの連携会議・研修会の開催

【成果・課題 等】

（成果） SCと既存のシステムとの連携によりさらなる労働力確保が可能となる地域がある

<長与時津SC>

研修会参加者 SC会員20人

みかんの収穫作業希望者 17人

うち14人が農家5戸の収穫作業を実施

（課題）

農家への周知・利用拡大

他地区への波及

SCとの連携による労働力確保が困難な地区での対策

【今後の課題】

SC会員の活用拡大のため、農家へPR。

連携の可能性があるSCとは研修会の実施に向けた協議を継続。

援農者のさらなる確保のため、主婦層の活用、地域間連携等についても検討。

沖縄県人くらぶ（沖縄県北部地域）

【団体名】沖縄県人くらぶ

【テーマ】

「援農隊の創設」とやんばる農業活性化にむけた取組

【実施内容】

- ・名護市を中心に農家の現状把握（栽培品目、規模、繁忙期、課題の確認）  
・研修カリキュラムの作成  
・ハローワーク、シルバー人材センター、教育機関との打合せ  
・援農者の募集  
・援農者の農業研修

【成果・課題 等】

- ・沖縄県新規就農支援センターと、ゆるやかな連携スタート  
・新農業人フェア東京開催へ2回出席し、約30名の援農および就業相談を行う。その内3名が  
沖縄県北部に来る予定（2015年4月、7月）  
・ハローワークへの代理求人申請NG  
・宿泊施設の未整備  
・沖縄県農業大学校との関係強化

【今後の課題】

- ・宿泊施設の整備について、名護市と調整  
・沖縄県農業大学校との関係強化  
・援農希望者の募集強化  
・シルバー人材センターとの連携強化




◆ 平成26年度 農林水産省 援農隊マッチング支援事業 第2回全国会議第2部資料

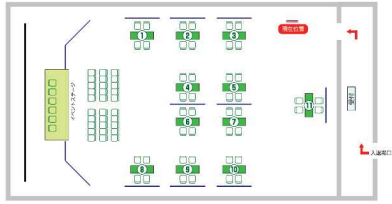
農林水産省「平成26年度 援農隊マッチング支援事業」  
平成26年度報告会議「援農隊マッチングフェア」  
援農隊マッチング支援事業報告会&援農交流会

日時：3月9日（月）16：00－18：00  
会場：パソナグループ本部 8階ホール

第2部資料

 PASONA  
農産部

**援農隊 マッチングフェア 第二部 出展ブースのご案内**

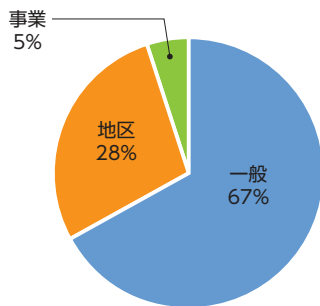


- ① 特定非営利活動法人 ぽかぽか（北海道札幌市）
- ② 農業法人 株式会社あすファーム札幌（北海道札幌市）
- ③ 松島えん有隣責任事業組合（千葉県松戸市）
- ④ 特定非営利活動法人 ぽかぽか（千葉県松戸市）
- ⑤ 特定非営利活動法人 農業マッチング推進会（大阪府大阪市）
- ⑥ 特定非営利活動法人 ぽかぽか（東京都中央区）
- ⑦ 東京農業大学（東京都荒川区）
- ⑧ 八雲地域農業振興協議会（静岡県浜松市）
- ⑨ 長崎県（長崎県）
- ⑩ 沖縄県人くらぶ（沖縄県那覇市）
- ⑪ パソナ農産部

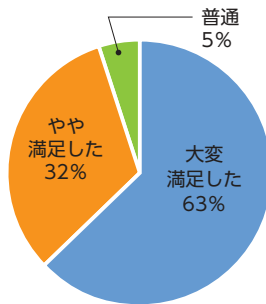
本日は全国より様々な数組みをしている地区推進団体の方へ起こし頂いております。第1部にて案内になった団体のブースにいらしていただき、援農についての疑問を少しでも解消頂ければと思います。この交流会を持たせていただきました。情報収集の場としてご利用ください。

アンケート結果

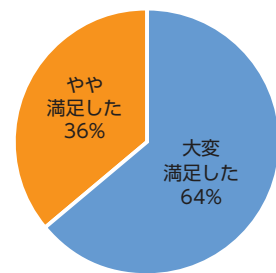
◆ 回答者の割合



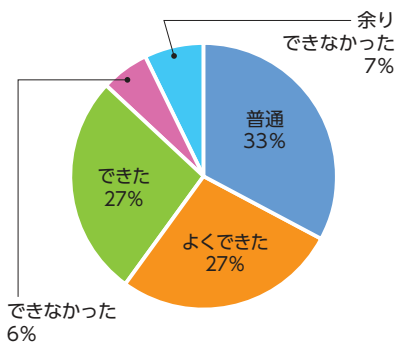
Q1 本日の援農隊マッチングフェア 第1部はいかがでしたでしょうか？



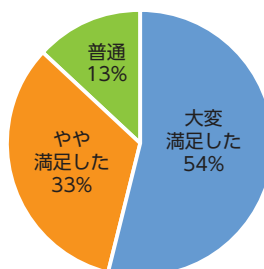
Q2 本日の援農隊マッチングフェア 第2部はいかがでしたでしょうか？



Q3 本日の援農隊マッチングフェアでご参加された方と広くネットワークができたでしょうか？



Q4 本日の援農隊マッチングフェア全体の満足度はいかがでしたでしょうか？



### 問1 第1部における地区推進事業者様の発表で、印象に残った発表とその理由についてご記入ください。

#### NPO法人ほかげ

- 北海道ならではの取組みかも知れませんが、大学生とのネットワーク構築はとてもうらやましく拝聴させていただきました。私達も地域を活かした対象者の絞込みも必要だと感じました

#### 徳島県

- 細かいカリキュラムを組んで行っている点

#### 長野県

- 社長が経営にかかわるすべてのことをやらないといけなため管理・総務などの面で企業の人材活用可能性を考えているという話も、今後農業規模の拡大を考えている法人にとっては重要な視点だと感じたので来年度以降の取組みに注目したいです。
- 目指す姿がしっかり整理されていた

#### 西宇和みかん支援隊

- 研修、体験、バスでの送迎、宿泊手配など積極的に手を伸ばされ人の確保に組織化に取り組まれている先行事例に感じた。
- 様々な人脈や国事業を活用して多様な担い手を活用しようと積極的に取り組んでおられるお話が聞けて参考になった
- 長崎でも地域外からの労働力確保も含めて多様な支援者の確保が必要と考えるがすでにそれらの取組みを実施されており、参考になる
- 援農者の能力面でのケア、農業者の求める人材マッチングについて
- 色々な取組みをされている、宿泊施設は重要だと思った

#### 農業生産法人株式会社あすファーム松島

- 必要とされている人材の詳細を調べ上げ、足りない部分を研修で補うところ

#### 南アルプスフィールドトリップ

- 農業検定という明確な資格基準に基づいて人材の価値を明確化しながら援農者を作ることはよいと思います。人材の実の標準化は大きな課題です。何らかの基準によって示すことが大切。
- 検定、子育てママ、マルシェなど若い人材を取り入れるためのキーワードがたくさん盛り込まれており、農業に多面的に関ることのできる仕組みづくりをしている。有償スタッフは検定合格者のみという能力に対する評価が入るのは自信につながる。あとは農業者との交渉方法を知りたい。
- 援農検定の考え方が非常に興味深かった、習熟度を測ることは生産者・労働者の双方にとっても重要だと思います。

### 問2 援農隊マッチングフェアへのご意見・ご感想がございましたらご記入ください。

- 援農の取組みはまだこれから仕事という感じがした。援農ボランティアを希望する若者が集められるか課題である
- 学生などの若い方の意見や農業を外からみた意見を聞けてよかった
- 学生の方の意見、とても刺激になりました、外部の方の意見はとても参考になります！
- 全国を移動しながら援農をしている人の意見を聞きたいと思っていたのでそういう団体の事例が聞けてよかった
- 第1部と第2部を分ける意味がよく分からないし、交流会は最後でいいと思います。個別ブースは敷居が高いです。第2部のパネルディスカッション中に個別ブースの話声が丸き声なのはいいかなものかと思います。個別発表とパネルディスカッションの内容は非常に参考になりました
- 大変いい活動だと思いました
- 大変参考になりました
- 他の事業者の活動をしり、学び、自身の事業推進に活かすことができるいいきっかけになると思います。
- 地区推進事業者の方々が即戦力としての援農要因を求めているのに対し、Vコミュニティさんや学生団体で組織されている援農要因はなんとなく農業に興味をもっているような方々なので両者の援農という言葉のとらえ方にまだギャップがあるように感じました。今回の事業における援農という言葉の定義を最初にお示しただけならより助かったなと思います。
- 日本の未来⇒持続的発展に向けて1次2次3次産業すべては大切なもの、1次産業へのイメージをほかの産業に劣ることの無いものにしたいと思います。今後も継続的に実施して欲しい。
- 農業に実際にやっている農業従事者をもっと集められるとよかったと思います。

### 問3 援農隊マッチング支援事業 地区推進事業者様へのご意見・ご感想がございましたらご記入ください。

- 援農者の組織化、受入体制の整備という難しい課題に取り組まれており、頭がさがる思いです。ご苦勞も多いかと推察されますが、どうかがんばってください。
- 地元農業の人材不足という論点だけでなく、全国の農業という視野にたち、よりよい日本農業の未来を全員で作っていくという思いの共有が必要であると思います、他見から若い人が学生として交流しているのが現状です。どの地域でも農業者を育て、どこでも働けるようにネットワークすることが大切だと思います。(就農に向けた社会機会を向上される)
- それぞれの事業費の内訳を知りたい
- 地域ごとに事業が異なるので苦勞の内容も異なるとともに、逆に地域間で助け合える可能性があることが分かり大変参考になりました。新しい発想で取り組んでおられるところはとても刺激になりました。

- 地域で援農の取組みを広げて欲しい
- 地区ごとに様々な取組みをされており、勉強することが多いです。共通課題も多く、援農者の取り合いになっているわけではなく、連携ができる可能性も高いことも知りました。北海道⇒愛媛⇒沖縄と動くアルバイト産の存在を知ったので時期が合えば岐阜もと思います。

**問4 援農隊マッチング支援事業 全国推進事業者へのご意見・ご感想がございましたらご記入ください。**

- 援農は都市と農村、若者と農家をつなぎ、いわば農業活性化をさせる取組みだと思います、がんばってください
- 知らないうちに、パンフレットやポスターがどんどんできていてびっくりでした。少人数で全国推進をされていると勝手に思っていたので仕事がすごいです。これからもがんばってください
- 全国農業修行の企画はいかがでしょうか。都市部より全国各地を本事業を通じてルートを作り東京の学生などを地域に農業研修させるなどを行って、若者の視野を広げる、東京に状況している若者を地域に帰すこともできるかも？
- 全国の先進事例の詳細を知ることができ大変参考になりました
- 全国を回るアバターのネットワーク化
- 全国を渡り歩く援農アルバイトのネットワーク化や三置換の連携の仕組みづくりは全国推進事業者の立場でなければできない取組みだとおもう
- 提出して欲しい内容をフォーマット化してそれに記入する形にしていただけると提出しやすいです



## 【新・農業人フェア出展】

### 新・農業人フェア 12月(実施状況)

2014年12月20日(土) 東京開催 IN 池袋サンシャイン

来場者数 1,347名

参加情報 パソナ農援隊(就農相談)／援農隊マッチング新事業者 2ブースにて参加

訪問人数 パソナ農援隊：25名(うち情報取得23名)／援農隊：20名(うち情報取得17名)

#### ブース来場者特徴

平均年齢 26歳(20～63歳)

男女比率 男性8：女性2

- 農業に興味があるが何からやったらいいのかわからない
- 援農に興味がある
- 農業で働きたい
- 何か情報がほしい



### 新・農業人フェア 2月(実施状況)

2015年2月8日(日) 東京開催 IN 東京国際フォーラム

来場者数 1,780名

参加情報 パソナ農援隊(就農相談)／援農隊マッチング新事業者 2ブースにて参加

訪問人数 パソナ農援隊 14名(うち情報取得13名)／援農隊：約100名(うち情報取得8名)

#### ブース来場者

平均年齢 34歳(20～63歳)

男女比率 男性6：女性4

- 3月9日のイベント集客のためチラシ配布を中心に実施
- チラシ470部配布できた
- 農業について漠然と考えている方が多く情報収集に来た形の人が多かった。



## 【事業推進ツール】

## ●第1回全国会議ポスター

平成26年度農林水産省  
援農隊マッチング支援事業援農隊、  
出陣です。

農家・農業法人の人材不足を強力サポート！

第1回全国会議

キックオフミーティング開催

近年、農村部では高齢化や過疎化が進行。定植期や収穫時期など、多くの労働力が必要となる際に人材を確保できない農家が少なくありません。

農家や農業法人が所得の向上を目指して経営規模・品目の拡大などを進めていくためには、その経営に見合った労働力を継続的に確保する必要があります。

本事業は、そんな農家・農業法人に対して必要とする労働力の供給システムを構築。「援農隊」として農業未経験者を含む人材を育成・組織化して、全国規模で農家・農業法人を強力にサポートしていくものです。

そして今夏、第1回の全国会議を開催。効果的な援農隊育成手法などについて検討を重ねます。

日 時／2014年7月4日(金) 場 所／パソナグループ本部 8Fホール  
開催時間 13:30～ 東京都千代田区大手町2-6-4

申し込み  
締切日  
**7.3**  
木曜日

お問い合わせ  
お申し込みは

**TEL.03-6734-1260**

agri@pasona-nouentai.jp

株式会社パソナ農援隊 全国推進担当事務局・岩澤・後藤  
※定員(100名)になり次第、受付を終了させていただきます。

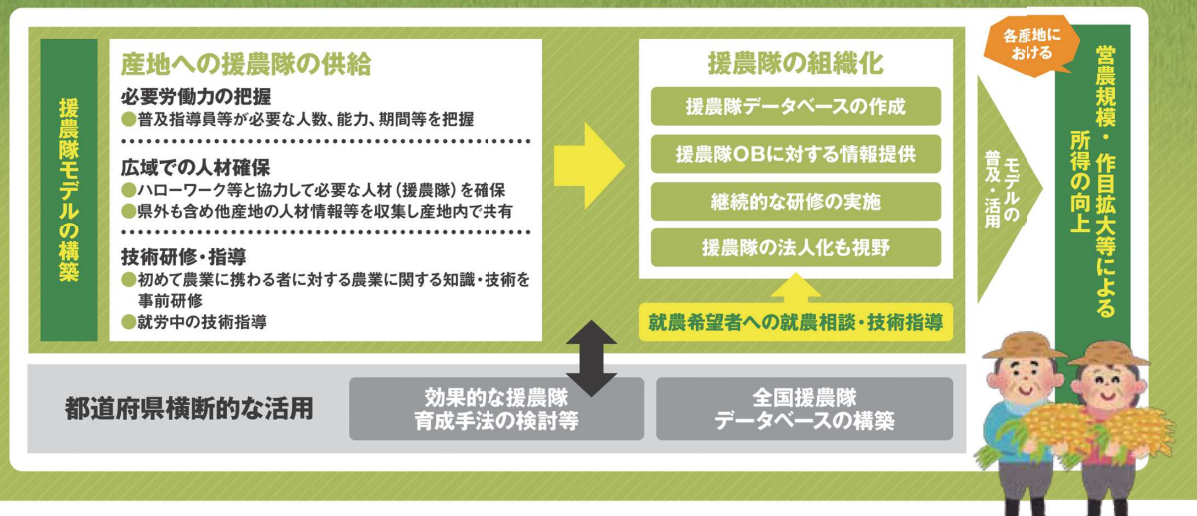
 P A S O N A  
農援隊



## ●第1回全国会議チラシ

# 農家等に必要な人材を 円滑にマッチング!

[援農隊マッチング支援事業の概要]



平成26年度農林水産省補助事業 援農隊マッチング支援事業

## 第1回全国会議 キックオフミーティング 開催! 2014.7.4(金) 13:30~

パソナグループ本部 8Fホール/東京都千代田区大手町2-6-4



JR東京駅日本橋口より徒歩4分  
東京メトロ東西線  
「大手町」B9出口より徒歩1分  
東京メトロ銀座線  
「日本橋駅」A5出口より徒歩3分

## PROGRAM

【第1部】13:30▶15:00 【第2部】15:10▶17:00

- 13:00 開場・受付開始  
＜第1部＞キックオフミーティング
- 13:30 開会  
農林水産省より挨拶  
パソナ援農隊より挨拶
- 13:40 パネルディスカッション「援農の可能性について」
- 13:45 講演「援農隊の推進について」
- 14:00 パネルディスカッション「援農の可能性について」
- 15:00 第1部終了 休憩(10分)
- ＜第2部＞援農隊マッチング支援事業推進セミナー
- 15:10 援農隊マッチング支援事業(全国推進)について
- 15:20 地区推進事業の紹介
- 16:00 休憩(5分)
- 16:05 地区推進セミナー
- 17:00 「援農隊推進のポイントについて」
- 第2部終了 閉会

※内容は変更する場合がございます。

申し込み  
締切日7.3  
木曜日

お問い合わせ・お申し込みは、お電話もしくはメールにてお願いいたします。

TEL.03-6734-1260

agri@pasona-nouentai.jp

定員(100名)になり次第、受付を終了させていただきます。

担当:岩澤・後藤



PASONA

農援隊



● 事業PRポスター

平成 26 年度農林水産省補助事業  
援農隊マッチング支援事業

援農隊が  
来てくれると  
作業がはかどるよ♪

応援します！

全国の産地を  
援農隊が

全国の農家・農業法人の人材不足をサポート!!

求む!  
援農者

農業では定植期や収穫期に多くの労働力を必要とします。  
高齢化や過疎化が進み、必要な人材確保が難しく、全国各地の農家であなたの手を必要としています！  
未経験者でも技術指導があるから、安心して働けます。農業を学びたい方、興味のある方など、  
農業のお手伝いをしていただける方は、援農隊で思う存分、力を発揮してください。

お問い合わせは

株式会社パナ農援隊

TEL 03-6734-1260

〒100-8228 東京都千代田区大手町 2-6-4  
受付時間 9：00～17：30

<https://www.facebook.com/ennoutai>

援農隊マッチング

検索

PASONA

農援隊



## 事業概要パンフレット



農援隊

# 援農隊 マッチング支援事業 について

平成 26 年度農林水産省  
援農隊マッチング支援事業

援農隊に参加しよう！

### お問い合わせ

株式会社パソナ農援隊

03-6734-1260

agri@pasona-nouentai.jp

www.pasona-nouentai.co.jp/

www.facebook.com/ennoutai



援農隊マッチング

検索

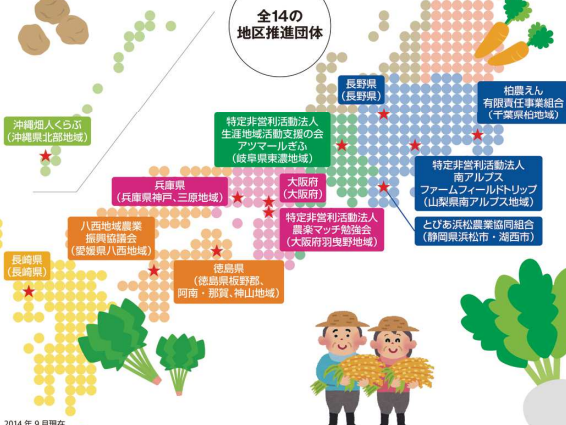
## 農家や農業法人に 必要な人材を 円滑にマッチング！

近年、農村部では高齢化や過疎化が進行。  
定植期や収穫時期など、多くの労働力が必要となる際に人材を確保できない農家が少なくありません。  
農家や農業法人が所得の向上を目指して経営規模・品目の拡大などを進めていくためには、  
その経営に見合った労働力を継続的に確保する必要があります。  
本事業は、そんな農家・農業法人に対して必要とする労働力の供給システムを構築、  
「援農隊」として農業未経験者を含む人材を育成・組織化して、  
全国規模で農家・農業法人を協力をサポートしていくものです。

特定非営利活動法人ほかけ  
(北海道平取町)

農業生産法人株式会社  
あすファーム松島  
(宮城県松島町)

全14の  
地区推進団体



2014 年 9 月現在

### 農家・農業法人の方へ

農業規模拡大を見込んでいる方、自分たちだけでは  
手が回らず、農業が大変になっている方、援農者の  
助けを借りてみませんか。  
簡単な作業からでもご相談下さい。

### 援農者(援農をお考え)の方へ

農家さんの力になりませんか、多くの人があなたの  
力を持っています。空いた時間、旅行に行った先で、  
などなど時間を有効活用。農家のお仕事は幅広い、  
あなたもプロを助ける援農隊に参加下さい。

詳細はお近くの地区推進事業者へ  
お問い合わせ下さい。



### 全国推進について

主な内容

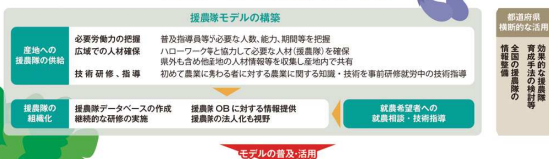
援農に関する情報の取りまとめと整備、都道府県を結んだ援農者の活用を促進するとともに、  
全国会議を開催して効果的な援農者育成手法についての検討を支援します。

### 地区推進について

主な内容

- 1 農家・農業法人の必要とする労働力供給システムの構築  
農家・農業法人が必要とする人材の数や能力、期間等を求人票にまとめ、  
シルバー人材センター・ハローワーク等を通じて人材を確保し、供給するシステムの構築を支援します。
- 2 「援農隊」の組織化  
農業未経験者を含む幅広い人材からなる「援農隊」として組織化し、援農者に対する農業関連情報の提供や  
会議開催等により、援農者の農業に対する知識を深め、長期的な援農者としての定着を支援します。  
また、営農形態の似ている都道府県間や、人材情報や、援農者の活用状況等について情報交換を行います。
- 3 就労前技術研修の実施  
初めて農家・農業法人に援農しようとする者等に対して、農具の使用法、農業機械の操作方法等についての研修を実施します。
- 4 就労中の技術指導の実施  
作業中の就労者に対して、農家・農業法人のメンバーと協力し、技術指導を実施します。

### 援農隊マッチング支援事業の概要



名産地における営農規模・作目拡大等による産地活性化



## ●WEBページ

<http://www.pasona-nouentai.co.jp/ennoutai/>

**PASONA 援農隊** 農家や農業法人に必要な人材を円滑にマッチング!

03-6734-1260  
受付時間 10:00-19:00 (無休)

農業について 援農隊について 全国推進団体について 地区推進団体について 農業を営んでいる方へ

**日本の農業を応援します**

農業について 全国推進団体について 農業を営んでいる方へ

**地区推進団体について**

北海道平取町 特定非営利活動法人 ほかけ	宮城県松島町 農業生産法人株式会社 あすファーム松島
千葉県柏地域 柏農えん 有限責任事業組合	長野県 長野県
山梨県南アルプス地域 特定非営利活動法人 南アルプスファーム フィールドトリップ	静岡県浜松市・湖西市 とびあ浜松農業協同組合
岐阜県富田地域 特定非営利活動法人 生涯地域活動支援の会 アブマルぎふ	大阪府 大阪府
大阪府百鬼野地域 特定非営利活動法人 農業マッチング協議会	兵庫県神戸・三木地域 兵庫県
徳島県 徳島県	愛媛県八幡地域 八幡地域農業協同組合
長崎県 長崎県	沖縄県北部地域 沖縄県人くらぶ

## ● 援農者求人票フォーマット

援農者 求人票【案】

## 援農者 求人票

受付年月日	
受付番号	
受付受理者	

フリガナ 氏名											
フリガナ 団体名											
住所											
連絡先	電話番号：					携帯番号：					
業務内容	作物： 作業内容：										
就労場所	名称：					住所（ ）					
求人人数	名										
その他希望	作業経験					あり・なし			その他（ ）		
雇用予定期間	平成		年	月	日	～	平成		年	月	日
就労時間			時	分	～			時	分		
休憩時間			時	分	～			時	分		
休日	月・火・水・木・金・土・日 その他（ ）										
賃金	時給・日給					円					
その他希望											



## ● 援農求職票フォーマット

援農求職票【案】

## 援農求職票

受付年月日	
受付番号	
受付受理者	

写真
----

フリガナ 氏名					
現住所					
年齢	歳				
電話番号	TEL	携帯			
免許・資格					
農作業の経験	有	作業内容	期間	年	ヶ月 くらい
	無	具体的な内容( )			
希望業種					
希望休日	月・火・水・木・金・土・日・その他( )				
希望時間	時 分 ～ 時 分				
希望勤務期間	常用・期間限定(具体的な期間)				
通勤方法	公共交通機関(鉄道・バス)・自家用車・その他( )				
希望勤務地					

☆個人情報保護法により個人データについてはその漏えい、紛失、破壊および改ざんの防止に努め、求人者に対して求人者情報を提供するため以外には使用致しません。

## ● 援農者雇用契約書フォーマット

援農者雇用契約書【案】

## 雇用契約書

株式会社援農隊(以下甲という)と野菜 農美(以下乙という)とは、下記労働条件で雇用契約を締結する。	
雇用期間	平成26年10月 1日 ~
契約更新の有無	1. 期間の定めなし 2. 期間の定めあり(～平成27年 1月31日) 3. 「期間の定めあり」の場合の更新の有無 ①ある ②する可能性がある ③ない 4. 更新する場合又はしない場合の判断基準 (①乙の勤務態度、能力 ②甲の経営状況)
就業の場所	当法人事業所敷地内 など
従事する業務内容	農作業全般、作物などの運搬業務、その他正社員の補助事業 など
繁閑の差の有無	1. 月によって始業・就業時間が異なる(有・無)
始業・終業の時刻	2. 始業・終業の時刻(1日の所定労働時間) ①始業 9:00 ~ 終業 15:00 ( 5時間) ②始業 ~ 終業 ( 時間) ③始業 ~ 終業 ( 時間) 3. 1か月の所定労働時間 ①1か月の所定労働時間が年間を通して変わらない場合 時間 ②月によって1か月所定労働時間が異なる場合の月毎の所定労働時間( )内は1日の所定労働時間 月 時間( ) 月 時間( ) 月 時間( ) 月 時間( ) 月 時間( ) 月 時間( ) 月 時間( ) 月 時間( ) 月 時間( ) 月 時間( ) 月 時間( ) 月 時間( )
所定労働時間	4. 1年間の所定労働時間 時間 5. 1週間の所定労働時間 20時間
所定外労働の有無	6. 時間外労働の有無:有
休憩時間	(①日・週・月・年 以内 ②日・週・月・年 以内) 無
就業時転換の有無	7. 休憩時間:①10:00～10:15 ②12:00～12:45 ③
休日	1. 定休日 有・無 :毎週 日曜日 水曜日 木曜日 2. 非定休日 3. 年間 日
休暇	年次有給休暇(6か月金風勤務した場合:7日) (詳細は、就業規則による)
基本給と諸手当	1. 基本賃金(時給 1,200円)(日給 円) (月給 円)(年間 円)
締切日と支払日	2. 諸手当の額 ① 通勤 手当 200円(日額)
支払方法	3. 割増率:①時間外労働 25% ②休日労働 35% ③深夜労働 25%
賞金支払時の控除	4. 賞金締切日15日 5. 賞金支払日 当月・翌月 25日(ただし金融機関が休日の場合は前日)
昇給	6. 賞金支払時の控除:有(法定控除)・無 8. 昇給:有( 月)・無
賞与	9. 賞与:有 年 回( 月、 月)・無
退職金	10.退職金:有・無
試用期間中の賞金	11. 試用期間中の賞金:試用期間は設けない。(詳細は、就業規則による)
退職に関する事項	1. 自己都合退職の手続(退職する30日以上前に届出ること)
解雇の事由及び手続	2. 解雇の事由及び手続:就業規則第●条に定める通り(詳細は、就業規則による)
労働・社会保険	1. 雇用保険の適用(有・無) 2. 健康保険・厚生年金保険の加入(有・無)
使用期間	3. 他( ) 4. 試用期間: 有 (1・2・3か月間、平成 年 月 日～平成 年 月 日)・無

上記契約の証しとして本書2通を作成し、甲・乙各1通を保有する。

平成 26年 1月30日

甲:〒123-4567 東京都援農市1234  
株式会社援農隊 代表取締役 田畑 豊作乙:〒123-4567 東京都援農市9876  
野菜 農美

● 援農作業受委託契約書フォーマット

援農作業受委託契約書（案）

委託者（以下「甲」という。）及び受託者（以下「乙」という。）は、おのおの対等な立場における合意に基づいて、次の条項によって受委託契約を締結し、信義に従って誠実にこれを履行するものとする。

この契約の証として、本書2通を作成し、記名押印のうえ各自1通を保有する。

平成 年 月 日

委託者  
住所  
氏名 印

受託者  
住所  
氏名 印

第1条（援農作業受委託の内容）  
甲は、この契約書に定めるところにより別表に記載する援農作業を乙に委託し、乙は善良なる管理者の注意を持って援農作業を実施するものとし、甲は、乙が受託作業を円滑に行えるように栽培管理等に十分な配慮をするものとする。

第2条（援農作業受委託の契約期間）  
援農作業受委託の契約期間は、平成 年 月 日から平成 年 月 日までとする。

第3条（委託援農作業の実施内容）  
甲が乙に委託する援農作業の実施方法は、甲が特に指示するもの以外は、乙の実施計画によるものとする。

第4条（委託援農作業の実績報告）  
乙は、受託援農作業を実施するとき並びに完了した時は、その都度速やかに甲に通

知するものとする。又、乙は年間の受託作業の一切が完了したときは、援農作業完了報告書を甲に提出するものとする。

第5条（受託料の額及び支払い方法）  
甲は、別表に記載された農作業に対して、同表に記載された金額の受託料を、月末日までに支払うものとする。

第6条（契約の変更）  
契約変更する場合は、甲乙協議のうえその変更事項をこの契約書に明記するものとする。又、契約期間の途中において、契約を解約する場合は、双方の合意により解約するものとする。

第7条（その他）  
この契約書に定めない事項については、甲乙協議して定めるものとする。

別表

援農作業を委託しようとする作物・土地の表示・作業の種類・委託料・支払い方法

作物	住所	地積 (㎡)	作業種類	委託作業 面積 (㎡)	委託料 の単価	委託料 の額	支払い の方法	支払い の時期	備考
合計									

● 援農隊育成カリキュラムモデル(初心者編)

初めて援農を行う人向けの研修カリキュラムモデル。農業や援農に関する関心を高めるとともに、農家で安全に農作業を行うための最低限のポイントをつかむためのカリキュラムです。

No	分野	テーマ	内容	時間	ねらい
1	農業・援農について	日本の農業について	日本の農業をとりまく状況・課題等について	0.5	農業界全体について知り問題意識を高める
2		地域の農業について	地域の農業をとりまく状況・課題等について	0.5	地域農業について理解を深める
3		援農について	援農の必要性、援農という働き方について	0.5	援農の必要性・効果について理解をする
4	農家・道具について	農家・作物について	農家や作物について	0.5	援農に入る農家の特性や作物の特色について理解を深める
5		道具・機械について	援農に使う道具・機械について	0.5	道具・機関の基本的な知識を身につける
6		資材・肥料・農薬等について	援農に関わる資材・肥料・農薬について	0.5	資材・肥料・農薬について基本的な知識を身につける
7		農業の用語・単位について	農業で使われる用語・単位について	0.25	農家特有の用語・単位について知る
8	援農の働き方について	指示の受け方について	農家とのコミュニケーション、報告・連絡・相談について	0.25	農家とのコミュニケーションのポイント・注意点について知る
9		作業の仕方について	体の使い方、ペース配分について	0.25	仕事として継続するために安全な体の使い方・ペース配分のポイントを知る
10		安全管理について	援農における安全管理について	0.5	安全管理の重要性を理解する
11		労務管理について	援農における勤務管理・時間管理について	0.25	勤務管理・時間管理の方法について説明する
12	現場研修	現場研修	道具・機械の使い方、体の使い方、作物の扱い方、安全確保の仕方	2.5	上記、座学研修のポイントを現場（農場）で実践し体験して学ぶ
計				7	



## ●【援農希望者向け】～ハンドブック～





## ●【援農者受け入れ農家向け】～ハンドブック～

### 援農者を 雇用する上での 『心得』

援農希望者と、受け入れ農家に起こる問題には様々な原因が考えられます。

農家も、援農者も気持よく仕事ができるよう、心がけるべきことを一緒に学んでいきましょう。



### 6 作業ミスを減らすには

**① 農家と援農者の作業分担**  
作業は農家と援農者の作業分担を明確にすることが必要です。毎日必要な作業についてはチェック表のようなものを作り、援農者に作業を頼むようにします。

**② ミスへの対処**  
ミスをしてしまったら①決して罵倒しない②ミスを繰り返しても、その都度丁寧に注意する。この2つが大切です。援農者のミス、失敗は農家の責任です。作物の特性をよく理解してもらい、作業内容、仕事量、体力などを考慮した役割分担を行うことが重要です。

お互いを理解し、  
力を合わせて  
頑張りましょう！



地区推進／連絡先

### 【援農者受け入れ農家向け】 ～ハンドブック～

### 1 万一の補償対策と安全配慮

**① 労災保険の加入**  
援農者を雇用するのであれば、必ず労災保険に加入してください。

**② 安全への配慮**  
経営者は、労働者に対して安全配慮義務を負っています。援農者が、その能力、技術を十分に発揮できるように、農家は、安全に十分な配慮をすることが非常に重要です。

### 2 福利厚生面で大切なことは

**① トイレ、洗面、更衣場所**  
農作業では、家と作業場が離れていることが多いため、公衆便所などの確保はしておきましょう。更衣場所は休憩室などカーテンで仕切りをして、作業衣を替える場所を用意しておきましょう。

**② 休憩室(救急箱は必須、CDラジカセやラジオ等もあれば)**  
援農者の休憩及び昼食などの場所として、休憩室を設置します。救急用の常備薬(包帯、消毒液、絆創膏、胃腸薬)は常に用意しておきましょう。

**③ 明るい雰囲気作り(援農者同士のコミュニケーション)**  
農家の明るい笑顔や心のもったコミュニケーションが一番大切です。

**【参考】援農者が仕事をやめる理由**

✓仕事のやり方がわからない。	✓仕事をしたくはない。	✓時給が安い。	✓顔ごしにできる。
✓仕事上の人間関係のトラブル。	✓働くスケジュールに一貫性がない。	✓仕事が面白くない。	✓作業環境が悪い。

### 3 作業環境面で配慮する点は

**① 採光、換気を配慮した環境づくり(作業衣やレイアウト)**  
出荷作業や細かい手先の作業では、作業する場所が明るくなるよう、光源の位置を調整します。作業内容によっては、作業衣を用意してもらるか貸与の準備が必要です。また、出荷調整作業場に冷房あるいは暖房を設置している事例もあります。これらは、人を雇用していく場面では積極的に取り入れましょう。

(例)日除け用帽子、エプロン、手あかやかぶれ防止手袋、長靴、防塵用ジャンパー



### 4 上手な指導方法

**① 仕事の流れを丁寧に教えます**  
援農者の横にならんで同じ目線で、一つひとつ区切って、部分を確認しながらカンやコツを丁寧に説明します。そしてやらせてみます。何日間で自分一人でやらせてみて修正していく程度のフォローアップを行います。

**② やる気を出させる**  
援農者達が頑張ってくれたから、これだけ業績が上がったというような事を示し、農家と一体になって進めてきたことを共に喜び感謝します。

**③ 農家の指示、指揮系統が正確に伝わっているか**  
何時から(when)、誰と誰が(who)、どこで(where)、何を(what)、どのような作業で(how)行うのか、援農者にきちんと伝える意識が農家には必要です。

**④ 整理整頓**  
作業指示をするとき、自分だけが道具などの場所を知っていて、援農者がそれを探しまわったりすることは、非常に効率の悪いことです。場所を決めて片づけなど指示することは、必ず行いましょう。

**⑤ アイデアをもらう**  
意欲のある職場は、アイデアや提案が豊かだと言われます。アイデア協力こそ、あなたに対するやる気のパフォーマンスです。

### 5 援農者との人間関係について

**① 欲求の満足度**  
農家が「給料さえ払えばいいんだ」という意識でいると、援農者の中には欲求が十分満たされず辞めてしまったりします。このため援農者の性格や態度など、日頃よく観察し、きめ細かい指導が大切です。

**【参考】やる気のもと(欲求を満足させる)**

✓報酬 賃金UP	✓昇級・昇格 Leader	✓仕事の達成感 New face
✓責任の委譲	✓公平な評価 Good	

**楽しいと感じる気配りの例**

- ◆ 温室の近くの畑に野菜をつくり、援農者に配布する。
- ◆ 自作地の農地を援農者に貸し、作ることや収穫をしてもらう。
- ◆ 誕生日に花束を送る。
- ◆ 休憩室やお茶菓子にお金をかけ休憩時間の会話を楽しくしてもらう。

**② 仕事への評価、相互の理解**  
毎日の仕事ぶりを評価し、悪かった点については注意し、良かった点については褒めてあげ、仕事に対する自信と誇りを持たせるように努めましょう。意欲の高い職場はアイデアや提案が豊富だと言われています。固定概念にとらわれず、援農者の声も聞いてみてください。

**③ 体調の変化**  
ベテランの援農者が病気で休んでしまうことは、農家にとっては大きな損失です。日頃から健康管理などに気を付けるようにしましょう。

**④ 毎日のコミュニケーション**  
明るい笑顔や心のもったコミュニケーションは援農者の心を和ませ、労働意欲を高めさせるでしょう。